

■安積中学校■安積高等学校在京同窓生

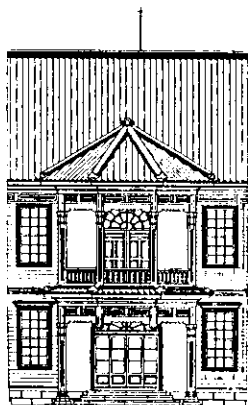
# 東京桑野会会報

●1994年3月1日発行●発行・編集人 澤田 梯●発行所 東京桑野会事務局 〒160 東京都新宿区新宿1-3-8YKB新宿御苑804

## 母校創立110周年記念号



No.  
**16**





## ご挨拶

東京桑野会会長 澤田 悌 (42期)

会員の皆さん、お元気に平成六年の日々をお過ごしのことと拝察、誠にご同慶の至りに存じ上げます。こゝに東京桑野会会報第十六号をお届けいたします。巻末記載の通り会の役員については、平成五年四月十六日の総会において若返りと充実をはかつて改選を行い、新陣容のもとに会の一層の発展を期しております。皆さんのご鞭撻をお願いいたします。

本年はわれわれが母校安積中学・安積高校が創立百十周年を迎える記念すべき年でありますが、東京桑野会としても来る六月四日(土)に本年度総会と併せて盛大な祝賀会を開催する予定です。東京地方に多数在住される同窓会の皆さん特に若い年次の方々にも挙って参加されますようお願いいたします。(会の詳細は裏表紙の通りです。)

又今年三月安積の母校を卒業して東京地方に進学或は就職される方も多いでしょう。東京桑野会はその母校に学んだという共通の体験をもつ若い同窓生諸君を心から歓迎いたします。どうぞ東京桑野会事務局にご連絡下さい。

所謂バブルの崩壊後の経済不況は容易に回復せず、会員の皆さんも何かと影響を受けておられることでしょう。どうぞ一層ご健康で頑張っておられることをお祈りいたします。

## 東京桑野会三箇条



①桑野の母校に学んだという共通の経験に結ばれた同窓の親睦の会であること

②会員は仲良く相親しみ楽しい会であること

③何んらかの意味で会員の頼りになるような面もある会であること



# ご挨拶

安積桑野会会長 渡辺信雄(53期)

この度東京桑野会会報第十六号発刊にあたり、何かご挨拶をとの報に接し、心から御礼を申し上げますと共に、皆様東京会員の方々に紙上をもつて接するまたとない機会を与えて下さった事に深く感謝と喜びを欣じ得ません。誠に身にあまる光栄と思っております。またこの号が、はからずも本校安高の第百十周年の記念号となりますことは誠に時宜を得たものであり記念号としての残しうるまたとない企画であります。心から御企画、ご苦勞に感謝申しあげます。さて常日頃御地桑野会の皆さんには色々とお世話になり、本部分事計画にこそつて賛同され御協力を戴いておりますことに厚く御礼申し上げます。本部桑野会としても大変心強く思っております。特に今年度(平成五年)は吾れらの大先輩であります朝河貫一博士の生誕百二十周年の記念として、当地二本松市に於て色々行事が催されたのであります。その原動力ともなられた東京桑野会会員の有志の方々と数回にわたる会議をもたれ、当地の県、市、等へ働きかけ真に有意義なイベントが実施されたのであります。私も現地の桑野会として面目を表わすべきとの考えからその計画に係りえたことに深く

感謝をいたしたことであります。安高生に対する博士の存在感をパネルデスカッションにより周知せしめ、今更ながら先輩の偉業に目をみはるものを感じさせられこれを安高創立百十周年の記念事業として何か役にたつものがないかと考え早速会議にはかり最大の記念事業として海外派遣研修を計画致しました。

平成六年九月三日、本校に於て大々的に御祝を行うこと相成りその準備に邁進しております。また皆様方への御通知等御送りしたと思いますが、その中の基金については各段の御協力をこの紙上をおかりして御願ひ申し上げます。宜しく御協力の程重ねて御願ひいたします。どうか本校の記念すべき年の思い出ともなることであり、是非当日御出席の上色々御指導を戴かれたらと念じており、多数の御参加を御待ちしております。

東京桑野会の皆様方の益々ご健祥と御発展を祈念してご挨拶と致します。



人が季節が、集います。



## 味

お食事

伝統の味に季節の彩りそえて

●料亭・錦水

●松阪牛和風料理・離れ家

●レストランカメラア

## 宴

ご宴会

華やかな集いに17の大小宴会場

●2,500名様までのパーティ、国際会議

ファッションショーなどのお集まりに。

●最新機能の音響装置

## 寿

ご婚礼

住き日に水蓮の幸せを誓う

●800名様までの日本料理

フレンチ料理・着席・披露宴。

●庭園での記念写真も随時

お撮りいただけます。

●チャペルでのご挙式も承ります。

FUJITA KANKO

歩外支配人  
竹花則栄(55期卒)

CHINZAN SO  
**椿山荘**

東京都文京区関112-10-8

☎03-3943-1101



みやぎのついで

学校長 宮島守之

東京桑野会会員の皆様には益々ご清祥でご活躍のこととおよろこび申し上げます。

小生、昨春安積高等学校に着任いたしました宮島と申します。昨四月十六日椿山荘で行われました平成五年度東京桑野会の年次総会にお招きにあずかりまして、渡辺信雄桑野会会長様ともども参上いたし、澤田梯会長様はじめご出席の皆様と親しく接する機会を与えられまして深い感銘を覚えた次第です。その折、ご都合でご出席になれなかつた方々も多数いらつしやることと存じますので、この紙面をお借りしましてあらためて自己紹介をさせていただきます。よろしくお願ひ申し上げます。

各地にあります桑野会からお招きいただきまして、都合のつく限り出席させていただいておりますが、どの会場に参りましても驚かされ胸うたれますのは、安中安高の人脈の広さであり、安積を思ふ皆様の熱さ心であります。日本といわず世界を股にかけて、各界各層で実に多彩なしかも実にかげがえのないお仕事ななさっておられる皆様のお姿を拝見し、言ひようのない感動に身がふるえました。そしてそういった方々が会場に入られるなり、たちまちのうちに

青春の日に戻られて、瞳をかがやかせて熱っぽく語り合い、若々しい張りのあるお声で、「若草萌ゆる」を「紫の旗行くところ」を謳われる。そこには、桑野の学舎に学んだ誇りとなつかしさがあふれ、それぞれが通った時代や人生の違ひはあつても、共通の体験を共有しうる人生の一部があつて、それが連帯感となつて流れている。まことに百十年の歴史と伝統の重みとありがたさを感じます。

先輩の先生方へのご指導もありまして今現在も安積の良き校風は承継がれており、在校生は、「开拓者精神」を持って文武両道に励んでおります。全国的に都会化が進み、軽みにながされる傾向が見られる中で、安高生は常に遠くを見つめ事の本質を見据えて自己実現の道を着実に歩んでおります。すぐれた資質と能力を持ち、限らない可能性と人間的魅力をもつた安高生に期待するものは、自己の可能性への挑戦と豊かな人間性を持つて人類社会に貢献せんとする恣意なき努力の姿勢です。先輩諸氏に恥じない生き方のできるよう導きたいと願っております。皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念いたしますとともに、本年九月三日に予定しております創立百十周年の記念式典の折にお目にかかれるよう願っております。



東北一円足まめに……。ふるさと商いは心です。世界のトップファッションをネットワーク。

ふる里の肌ざわり 采女印製品  
お店の繁栄 豊かな暮らしをリードする

株式会社 大金 総合衣料問屋

福島県郡山市喜久田町卸1丁目68の1  
TEL (0249) 59 6464

代表取締役社長 小針 良雄 (67期)

# 水と緑のまち—郡山



郡山市長 藤森英二（64期）

百十周年記念東京桑野会会報第十六号の発刊を心からお慶び申し上げます。

私は、昨年四月に市民の皆様の広い御支持により、第十二代郡山市長に就任いたしました。「真にクリンで、公正、公平、誠実」をモットーに、心に「ゆとり」と「うるおい」があり、高齢者や女性、障害をもつ人達にも優しく、真の豊かさがあふれる生活空間を創造し、二十一世紀を担う子供達に素晴らしい夢と未来を与えるまちづくりを基本理念に、市民一人ひとりが「わがまち郡山」として誇れる「個性ある五十万都市」の建設を目指して、郡山市発展のため一身を捧げる覚悟で市政執行に努めて参る所存であります。

本年、郡山市は市制施行七十週年を迎えます。この間、東北の中核都市として大きな発展を続けて参りました。

その郡山市は今、二十一世紀に向けて更なる発展のために大変重要な時期を迎えております。

市民の切なる願いである福祉の充実、住みよい生活環境の整備、教育文化の振興等々を積極的に推進して行かなければなりません。また、駅西口を中心

とした市街地中心部の再開発事業や南インターチェンジ周辺、更には整備の進む盤越自動車道郡山東インターチェンジを核とする東部地域の開発など都市基盤の整備も急がなければならない事業であります。また、ジェトロ福島貿易センターの開設に伴う会場企業の国際化への対応、県立産業見本市会館（仮称）建設の促進、南東北総合卸センター及び郡山トラックセンターの高度化補完事業の推進、郡山ウエストソフトパークや中小企業団地整備計画の推進等々、周辺市町村の中核都市として相応しい責任を果たすべき事業も山積しております。

これからのまちづくりには個性ある都市像が必要であると思います。郡山市が発展してきた歴史を振り返ると、そこには常に水があります。その水は、今更申し上げるまでもなく、不毛の安積原野に通じた一本の水路—安積疏水によってもたらされた猪苗代湖の水であり、市内を南北に流れる阿武隈川をはじめとする大小河川と湖沼群の水であります。歴史が積み重ねてきた文化を活かしたまちづくり、郡山市にとってこの「水」こそが、ロマンあるまちづくりの都市像に相応しいテーマであると確信いたします。加えて郡山には、広大な土地、豊かな緑があります。「水」と「緑」、自然を活かした潤いある都市のイメージでまちづくりを進め、「杜の都」といったら仙台、「水の都」といったら郡山」と言えるようになってきたら、それは素晴らしいことであると思えます。今後、市政を執行するにあたって私は、これら郡山市の持つ優れた特性を充分活用し、市民の理解を得、そして市民総参加のまちづくりを進めていきたいと考えております。

各種貯油槽・圧力容器・製缶・化学プラント設計施工

## 興和鐵工株式会社

福島県郡山市富久町久保田字大久保63  
 電話 郡山 (0249) } 22 3840  
 } 32-3292  
 FAX (0249) 33 6104

代表取締役  
 荒井 孝一 (78期)

# 座談会



《出席者》 澤田 悌 (42期) 星 武典 (58期)  
長谷川 輝 (49期) 大津 隆 (63期)  
竹花 則栄 (55期) 水口 禎 (67期)  
土屋 七郎 (57期) 斉藤 英彦 (69期)  
司会 櫻井 淳 (78期)

平成5年11月9日

於：京王プラザホテル (東京都新宿区)

## PART I

# 東京桑野会の歩み

～母校の創立110周年にあたって～

——本日はお忙しいところをお集まりいただき有り難うございます。会報も今度で十六号を数えることになりました。徐々にではあります。最近では若い方の参加も増え、東京桑野会は着実な発展をみております。これも皆様はじめ先輩の方々のご尽力のお陰でございます。きょうは、東京桑野会の歩みを振り返りながら、会としての今後の在り方などをお話しいただきたいと思えます。そもそも、東京桑野会はいつごろできたのでしょうか。

### 東京桑野会の黎明期

斉藤 大正時代、修学旅行で上京した安中生が先輩たちからコーヒーをごちそうになったという話を聞いたことがあります。組織だったものではなかったかも知れませんが、東京にいる同窓生が何らかの形で連絡をとりあっていたというようなことはあったんじゃないでしょうか。

長谷川 戦前のことになるんですが、東京の学校に進んだ者のためにあった桑野寮で、先輩からキリンビールを二樽もらってごちそうになったことがある。みんな着物を着ててね。

——いつ会が発足したのか、役員はだれで会則はどうだったのか、その辺のことについてはいかがでしょうか。

澤田 まるで神代の時代です。よく分からないことが多いんですね。

長谷川 東京桑野会となったのは戦後ですね。竹花 椿山荘に四十〜五十人集まったことが

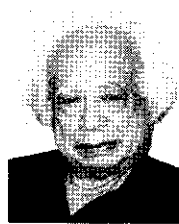
あったんですが、たしか昭和二十七年ごろだったと思います。

澤田 「郡山の桑野会の方が新しいんじゃないかなあ、オレたちは安積桑野会の東京支部じゃない」、そう言っていた先輩もいましたよ。

土屋 もっとも、桑野会とはいわれないが明治三十一年八月七日という日付の書類に「第一尋常中学校同窓会」という記述があります。斉藤 東京桑野会としては終戦後間もなく生まれているようです。

澤田 在京の有力者が集まって、というのが最初のようです。

### 歴代の会長と組織の充実



——初代の会長はどなただったんでしょうか。  
長谷川 永戸政治さん(21期)ですね。毎日新聞の論説委員をなさっていた方で、総会は毎日ホールで開いたんです。はつきりした年は覚えて

ないんですが、昭和二十年代だったですね。  
水口 永戸さんは、私が高校生のときです。昭和二十七年、八年ごろですが、安高に講演にみえました。たしか戦後の政治や国際情勢についてというようなお話をうかがったのを覚えています。

土屋 二代目が三澤敬義さん(26期)でした。——三澤さんについては、奥様の薫子さんが会報の十号に原稿をお寄せ下さいまして、

「東京桑野会の第二代の会長に推されましたのは、昭和三十五年頃でございます」とおっしゃってます。

水口 第三代が31期の壁谷祐之さん、現在の澤田会長は四代目になられるわけですね。

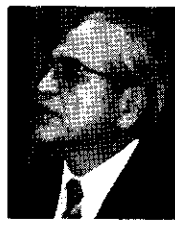
竹花 壁谷会長のときですが、「東京桑野会名簿」を作ってます。巻頭にある会長の「ごあいさつ」は日付が昭和四十七年十一月二十日となっています。

——役員構成はどうなっていましたか。

竹花 会長一名、副会長二名、先輩代表として理事若干名となっています。それから、会計一名、顧問・幹事若干名。

——会の規約は整っていたんでしょうか。

竹花 いま言った役員条項も入れて全部で



九条あります。おもしろいことには、第八条なんです。本会は各大学に支部を置き、学生間の連絡を図り、先輩の連絡は直接（会長方に置かれた）事務所に於いて之を行う」とあるんですね。

——壁谷会長時代には、会運営の実務を取り仕切る幹事長という役職は置かれていなかったんですね。

澤田 幹事長というのもなかったし、いまみたいな何々担当とかいうものもなかったんですね。会長や副会長が「君、お世話してくれ」というぐ



あいに、いちいち頼んでおったようですね。——そのあたりの事情は土屋さんが詳しいのではないのでしょうか。

土屋 世話役をさせるのなら、させるというのも変なんだが、言われればやりますから発令して欲しいと、そうお願いしたんですね。

——初代幹事長は長谷川さんですね。

長谷川 言い出しっぱの一人だったでしたから

らね。その中では、まあ年も上だったから、私が悪者になりましたと、そういうことで引き受けることになったんです。

——それはいつごろのことになるんでしょうか。

竹花 私が幹事長をさせていただいたのが昭和五十八年四月からでした。長谷川さんがなられたのは五十五年だったんじゃないかと思えます。

### 総会の移り変わり

——現在のような東京桑野会の組織・体制が整ったのは、そのころと言えるのではないのでしょうか。話題をちょっと戻して、総会の会場が椿山荘になる前の交詢社時代の思い出をうかがいたいと思います。

長谷川 開会というか開宴というか、早かったですね。いまは、懇親会は午後六時半からですか、それが当時はたしか三時ごろに始まったと思いますよ。

澤田 仕事が終わってから行くと、もう会は終わりに近くて食べるものは残ってない、ピ

ールもないなんてことも……（笑い）。

星 若い人はいたのかなあ。とにかく私らより大分先輩の方がほとんどだったんじゃないかな。

土屋 あのころは「敬老会でいいんだよ」と言う方もいましたから。

大津 私「なんか場違いなとこにきたなあ」と思ったのを覚えてますね。今とは随分と雰囲気違ってましたね。

星 学生を呼ぼうって、私なんかも言ったんですが、なかなかそうはならなかったですね。——交詢社のあとが椿山荘ですか。

土屋 いや、最近競売問題が決まったホテルニュージャパンで開いたことがありました。

竹花 椿山荘は私が大阪から東京に戻ったあとの昭和五十六年からですね。

### 会報は同窓会の絆

——以来、毎年素晴らしい景色と料理を堪能しながら、語り合える。これも竹花さんのお陰です。ところで、話題を会報の歩みについてに移しましょうか。

長谷川 ちょうど澤田会長体制発足にあわせたい形になるんですが、昭和五十七年四月に第一号が出ました。八ページでした。会員の原稿のほかに、安高生の進学状況や五十六年度

（注）【交詢社】わが国で最初の社交クラブ。

明治十三年（一八八〇）に福沢諭吉が創立した実業家を中心とした団体。

の総会出席者一覧が掲載してあります。

——ちなみに五十六年度の総会出席者は百四名です。このときは澤田さんは副会長です。土屋 東京桑野会の組織をしっかり整備するために、澤田さんに次の会長になっていただく。そのためにまず副会長に就任していただいたという訳なんです。

斉藤 規約ではないんですが、会長は副会長から選ぶというふうな慣例になっていたのですね。

——第二号が五十八年四月。この年と五十九年四月と九月に発行しています。それぞれ、九月は澤田新会長の選出と安積の創立百周年記念です。六十三年四月には、三十二ページの十号記念号を出すことができました。今回は母校の創立百周年記念号になります。

星 このような会報を出している同窓会は珍しいんじゃないですかね。

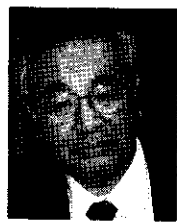
大津 出しているところは余りないでしょうね。会報は会員を結び付ける絆となっていると思えますよ。

竹花 総会に来られない人でも、「会報は送って下さい」と言って年会費を振り込んでくれる方は少なくありません。同窓生の音信や後輩たちの活躍を知ったり、会報を楽しむにしていってらっしゃるんです。

### 事務局の苦勞

——これまで、みなさんは事務局としても会のためにご尽力いただきました。その苦

勞話をせひうかがいたいのですが。最初に土屋さん、いかがでしょうか。



土屋 組織もまだしっかり固まっていますね。でも、内状のあて名は手書きでした。千数百枚でしたかね、家内に手伝ってもらたこともあったが、ほとんど自分一人で書いたもんです。

——そして、武藤一駿さん(74期)のところから星さんに事務局が移った後、アドレスカードになった。星さんのところでやっていただいた訳です。ほんとうにご苦勞さまでした。澤田 体制が整っていなかったから大変だったです。

斉藤 体制といえば、東京桑野会のなかに高校卒業者による部会ができたというか、できたことがあったんです。

土屋 「昭和54・10・13 高校部会に10万円支出」と記録が残ってますよ。

斉藤 私が高校部の責任者ということだったので、土屋さんから十万円をいただいて通帳も作ったんです。ここにもってきてありますけど、結構な金額ですよ、当時としては。

——それはどうなったんですか。  
斉藤 すぐ、でしたよね。土屋さんにお返ししました。

土屋 そもそも、高校部会を作ろうというのは、若い人の意向をもっと会の運営に反映さ

せようということだったんです。だが、そんなものがなくても大丈夫だっていう会になったということだったんです。

### 親睦を深める同好会

——整備されてきた、着実にいい形の会になっていったということですね。そのうえで、趣味の集まりも生まれ、会をさらに結び付きを強いものになっています。大津さんがお世話されてますゴルフもその一つですね。

大津 星さんのお兄さん(49期・故星武夫さん)が同好会として作ってくださいったんです。星 いや、ゴルフ会として続いているのは大津さんのお陰ですよ。

長谷川 今年が第二十回だよ。大津さんの功績です。

——同好会のスタートは、いつごろだったんですか。



大津 澤田会長が副会長になられたころだったんです。優勝者が次回と百円。優勝者が次回を運営するということになってたんです。それで第四回から私が。

——それで大津さんが幹事というか。お世話されている訳ですね。

竹花 囲碁の同好会もありますね。44期の高橋勇夫さんが中心になって始められたんです。大津 「ゴルフやんなら、囲碁もやるか」つ



とおっしゃってね。

**竹花** 澤田会長も入ってられますね。今は川井栄一郎さん(65期)が幹事役をされています。

**澤田** 三、四か月に一回くらいのわりで、東京駅の八重洲口にあるビルに集まっていますよ。

——川井さんは二段だそうですね。その川井さんにお聞きしたんですが、会員は約二十人、最高位は68期の久保保さんで、なんと六段でらっしゃるそうです。

**澤田** いまのところは、同好会は二つだけだね。桑野会の中にこういう趣味の集まりがあって、親睦を深めるのは大変いいことだね。

### 東京桑野会のこれから

——それでは次に今後の桑野会のありかたについてお伺いします。

**澤田** 桑野会の性格というものは、会報にある通りの趣旨であり続けてほしいと思いますね。

——いつも会報の一ページ目に掲載している三箇条ですね。

**澤田** そのためには、相当アウトでなければならぬことも多いし、正確が必要でもあるでしょう。そして、若い人にも魅力のある会にしていく。さらには会員相互のコミュニケーションを図る。その方法は沢山はない。会報を充実させ、名簿を整備する。そして、年一回の総会以外にもいろんな会合が開かれるよう力を入れるべきではないだろうかと思

うね。

**水口** 土屋さんが幹事長のときサブカルチャーを提案されましたよね。そういうものもい

いと思います。それと、職域懇ですか、以前に会報で弁護士さんの座談会をやったんですが、そういうものですね、同業者ごとの集まりがあってもいいんじゃないでしょうか。お互いの情報を交換したり、先輩の経験をきいたり、若い人のセンスを拝借させてもらったり……

**斉藤** 桑野会も、これからは高校卒業の人達



が中心になってきます。

旧制中学と違って、在籍

も五年じゃなくて三年で、母校への思い入れもそれほど強くはないし、人と人のつながりも希薄

です。だから、これまで以上に「集まりたくなる会」にしていかなければならない。そのためには「仲間がどんなことしてるのか」と

いう情報を伝えることのできる会、それによって触発されるような会になっていかななくてはならないんじゃないでしょうか。

**大津** そうですね、同窓生の動向をフォローしていくことは大事ですね。

**竹花** クラス会や同期会の情報をこの会報で紹介して、同時に情報を寄せてくれるよう呼びかけることが必要でしょう。

**土屋** 同感です。各期のクラス会などを載せるといいですね。

**長谷川** 若い人が一所懸命やってくれるようになった。これからも、いつそう若い力に頼

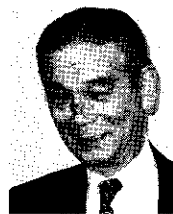
張っていただけの会にしていくことでしようね。

——星さんはいかがですか。

**星** 皆さんのおっしゃる通りです。

——次に、なんでも結構です。思ってることを考へてること、この機会におっしゃりたいことがございましたら、お願いします。

**星** 若い人がやって来る、先輩がアドバイス



し知恵を貸す。それが、安積の精神が引き継がれていくことです。大学生のコンパは会費が大体三千

円くらいですよ。総会の際に払うのも、大学生は総額でそれぐらいにしてあげる、その分は先輩諸公が負担してやるのがいいんじゃないでしょうか。

**大津** 賛成ですね。今は受験などで高校時代の交流は限られてるんじゃないでしょうか。

同窓生としての交流は(総会がひらかれる)椿山荘から始まる……そう言うるでしょうから、大学生が参加しやすいように物心ともに援助してあげるのはいいいことだと思いますね。

**竹花** 名簿の中に出身地、例えば須賀川とか本宮とかを入れたらいいんじゃないかと思うんですよ。大津さんは日和田でしたよね。

「あんだ、どっから通ってたの」って聞かれないですか。私もよく聞かれるんです。

——今は合併して郡山になったところでも、汽車の駅で日和田とか五百川とか、同じところの出身ということが、桑野会とはまた違った

帰属意識がありますものね。でも、「須賀川  
関」とか「本宮関」とかができて派閥抗争が  
巻き起こったり…(笑い)。

水口 さっきの同好会と関連しますが、会報



に短歌や俳句、川柳を載  
せるというのはいかがで  
しょうか。愛好者は多い  
と思いますよ。それが同

好会に発展することになるかも知れませんし  
…。

— それでは、最後に澤田会長に一言お願い  
します。

澤田 桑野というか安積というか、共通の経  
験をし、首都圏で生活している者の懇親の会  
ですから、「桑野」あるいは「安積」という  
名をなつかしく思う人が一人でも多く参加し  
てくれるような会にしていかなくはなりま  
せん。子が生まれ育っていかなくは国が成  
り立たない。それと同じことが言えるでしょ  
う。我々、会の運営に関わっている者も、ひ  
とつ力を尽くして期待に応えたい、そんなふ  
うに思っています。

— 本日はお忙しいところをありがとうございます。

### ★座談会追伸★

前ページの座談会で、東京桑野会の発足以  
来の『歴史』についてが話題となりました。  
ところが、記録・資料が乏しく、澤田会長が

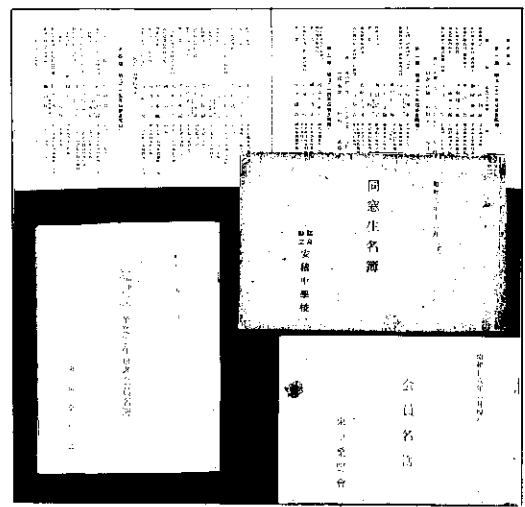
『神代のこと』と表現されたように、正確な  
年月日の不明が多々あることが分かりました。  
席上『この機会に、東京桑野会の歩みを略  
年表のような形でまとめられないものか』と  
いう意見・要望も出されました。

資料は戦災もあり、時とともに散逸を免れ  
ません。広報部会を中心として、さっそく資  
料の収集・整理にあたりたいと思います。お  
手元に、主に昭和五十五〜五十六年ごろまで  
の記録や会の案内状など、日付を特定できる  
もの、あるいは古い名簿などの資料がござい  
ましたら、広報部会までコピーをお送りいた  
だくか、ご一報下さることをお願い致します。

これが『隗より始めよ』ということなので  
しよう。座談会に出席した水口禎さんが、三  
冊の『名簿』Ⅱ写真Ⅱを見つけ、広報部会ま  
で郵送して下さいました。

そのうちの『昭和八年十二月 同窓生名簿  
福島県立安積中学校』には、創立以来の学校  
長・職員名簿と、1期(明治二十二年)から  
45期(昭和八年)までの卒業生が掲載されて  
います。1期には新城新蔵・元京大総長ら六  
人と高山樗牛(高山林二郎)氏ら物故者十二  
人の名があります。ほかにも、4期には米・  
エール大教授の朝河貫一博士、22期には創作  
家・鎌倉町議会議員として久米正雄氏、30期  
には肩書が空欄のまま作家の中山義秀氏の名  
が見えます。

写真右下は『昭和廿八年六月現在 会員名  
簿 東京桑野会』です。東京桑野会としては



最初の名簿かも知れません。一ページ目に規  
約があり、第一条は「東京本会ハ桑野会ト称  
シ 事務所ヲ東京都杉並区荻窪2ノ99永戸政  
治方ニ置ク」第二条では「本会ハ安積中学、高  
校出身在京者ヲ以テ会員トシ…」とあります。  
会長は永戸さん、副会長は三澤敬義さん。  
役員は外に常任理事四名、理事八名、顧問十  
名、会計一名、それに全員大学生からなる幹  
事十七名です。

また、元安積中学校教諭で横浜市磯子区に  
お住まいの菊池沖之介さん(15期)が名譽会  
員として記載されています。

写真の左下は昭和三十五年十月の日付とな  
っている東京桑野会名簿ですが、安積中学  
校・高校の『在京者会員名簿』となっていま  
す。会員資格が現在のように「東京都及びそ  
の近郊に居住する…」となったのは、極めて最  
近だったことが分かります。(丹治則男81期)

# アイルランド あれこれ

古川 清 (63期)

アイルランド大使

アイルランドに来てから四ヶ月になる。雨の国と聞いて来たが本当に良く降る。しかしドシャ降りは少なく大抵は小雨である。晴れた日でもゴルフに出掛ける時は傘と雨具をもってゆく。一時間後に雨とまらないとは限らぬからである。一度ロイヤル・ダブリンという名門コースで晴天からヒョウに変わり、強風とドシャ降りになったがリンクス・コースなので逃げ込む小屋も林もなく泣きたい思いをしたことがある。リンクス・コースは海岸の砂地に作ったコースで、水はけが良いのはいいのだがラフは深く、樹木はなく、風も強いのでスコアメイクが難しい。ゴルフのメッカたるスコットランドのセント・アンドリュースもリンクスだが日本にはリンクス・コースはないと思う。晴れた日のリンクスは対岸が手にとる様に見えるゴルフが無上の悦楽の様になる。

アイルランドに来て驚くのはアイルランド人の人の柄の良さである。外国人には特に親切でうっかり道でも聞こうものなら自分の用事はそっちのけにしてこちらの目的地まで案内してくれたりする。すれ違った見知らぬ人から「いい天気じゃありませんか」などと挨拶されて戸惑うこともある。そう言えば安

積時代通学のたんぼ道でこういう挨拶を農家の人と交わしたことが確かにあった。アイルランドは今でもこの様なひなびた良さを保っている。人口百萬のダブリンが巨大な「村」と言われる所以である。村だから皆が皆を知っており「隠し事」は出来ない相談となる。Aさんとゴルフに行ったら、翌日会ったBさんがそのことを知っていて驚くことがある。

アイルランド人の呑ん兵衛は有名だが、実にうまいモルト・ウイスキーがある。「ミドルトン」という平凡な名前だが20年もので、舌ざわりが良くてコクがある。併し生産量が少なく輸出専用なので国内では幻の酒となっている。一本ずつ木の箱に入っており通し番号がついた宝物の様なアイリッシュ・ウイスキーである。日本で見つけられたら試飲をおすすめするが間違っても水で割ったりしない様にお願したい。「原油」で飲むか、少し氷を入れる位にして欲しい。尤も一般のアイルランド人はギネス(黒ビール)を好み、パブに行くときアワのあるギネスをちびりちびりとゆつくり飲みながら話し込んでいる人を多数見かける。パブはみんなの社交場であるが、見なれぬ人が入って来てもすぐ一杯おごって友達にしてしまうタレント性がアイルランド人にはある。酒はつまみなしに飲むのが普通で、飲み且つ喰う日本の居酒屋組には一寸物足りないところもある。パブではウイスキーでもワインでもビールでも何でも飲めるが、レストランでは通常ワインしか出さないしきたりになっている。パブの経営保護のための様である。とに角あらゆる街角にはパブが何軒かあり、コンサートホールなどには各階にパブがついている。酒呑みにはこたえられない国である。

## 索道施設の総合設計施工管理

豊富な経験、最新の技術、万全のアフターサービス

# 東京索道株式会社

本社・工場／横浜市金沢区鳥浜町12-9

☎ 045(776)6550 (総務部)

札幌営業所011-232-5382 / 仙台営業所022-267-0544

新潟営業所025-241-7147

代表取締役社長

横尾 稔(第66期)

- ゴンドラ
- スキーリフト
- ロープウェイ
- ケーブルクレーン

# 安積歴史博物館の

## 今泉特別展示室開設に当って

### 今泉亀撒（38期）

安積桑野会岩手県支部長  
岩手医科大学名誉教授

私は、母校、安積中学を大正十五年、第三十八期に卒業した者であります。この度の安積歴史博物館の「今泉特別展示室」の開設は、かねてから要望されていたところであり、私にとっても大変光栄なお話ではありましたが、現在まだ元気に生存しておりますので、余りにもおこがましく、今までお断りしてきましたのが実情であります。

然し、母校の創立百十周年を機に再三関係者よりのお勧めもありまして、お引受けすることになり、本年四月二十八日に開室の運びとなったものであります。

展示室開設の誘因を考えてみますと、私が、日本において最初に死体眼球による角膜移植に成功したのであります。死体から眼球を摘出したことが日本の刑法百九十条、死体損壊罪に抵触した盛岡事件を惹起し、それが警察、検察、厚生省にも大きな問題として取り上げられ、遂に昭和三十三年に国会において法律論争が展開されたのであります。検察本庁の判断で、法的には問題があるとしても、社会性に富んだ正当な医療行為であって、犯罪の成立は認められない、との正式見解によって、「角膜移植に

関する法律」が衆参両院本会議で可決され、日本の角膜移植法が誕生したのであります。これが私の大きな業績として国の内外で取り上げられることになったのであります。

これを契機に、私が公然と多くの失明者、特に盲学校生徒に角膜移植による開眼手術を日本で率先して行ったことが米駐留軍に着目共鳴され、その援助活動として「開眼作戦」と銘打った開眼運動を日本のみならず世界的にこれを展開して、遂に私が米大統領よりVIPとして招待され感謝状まで受賞しました。

この盛岡事件の解決が基で、厚生省では各大学に眼球銀行の認可をしましたが、日本では角膜移植に供給する死体眼球が少ないので、私は日本において初めてスリランカから輸入した死体眼球を用いての移植に成功し、海外からの死体臓器輸入の道を拓きました。

このようにして日本に初めて開拓した私の死体眼球による角膜移植は、日本における臓器移植の先駆者としての功績が高く評価されたものと考えております。それで昭和四十九年には河北文化賞まで受賞しております。

展示室は、博物館二階北側中央の旧第一学年室であり、三面及び中央の四部に区分され展示品が並べられております。即ち、

A・生涯の譜（一番奥）

B・角膜移植の譜（廊下側）

C・世界学会旅行の譜（入口右側）

D・中央部

生涯の譜は、壁面に恩師の肖像、略歴、各界から

# 小橋クリニック

院長 小橋主税 (86期)

福島県須賀川市仁井田大谷地172 3  
TEL 0248-72-1555

の数多くの賞状、幼年時から現在までのスナップ写真。陳列ケース内には眼科に関する研究業績集、小中学校時代に使用した学用品等数多く飾り、この中には安中時代に使用した学用品等数多く飾り、この中には安中時代に五年間二里（八km）の道を往復通学しながら勉強する便利な小さな「ノート」類を始め、想い出の品々を展示しております。

「角膜移植の譜」には、「日本で初めての死体眼球による角膜移植」と「日本で最初の海外輸入眼球による角膜移植」との区分標示のもとに、死体からの角膜摘出にはじまり手術終了までの記録写真、私に関する角膜移植の関係新聞及び雑誌記事二千余部の中から、その一部を掲示してあります。

その他、文献、外国通信、古き時代の角膜移植用器具及び眼科検診用器具等が数多く陳列ケース内に

納めてあります。

展示室に入って右側は、「世界学会旅行の譜」となっており、これまでに数多くの国際学会に出席し、全世界の各地を旅しながら、土着民族との交流、その他の伝統民芸品を意識して収集して来ましたので、その一部を壁一面に飾っております。

また、その面の下の陳列ケース内には各国の民族楽器、仏像、お面等民芸品のほかに、中央部には、各国の紙幣、帽子、戦時中私が中国滞在時に着用した衣服等を展示しました。

以上今泉亀撒特別展示室の概略について説明しましたが、母校より西方約二里の距離にある一寒村、片平村から五年間無欠席で朴爾の高下駄で通学した私にとっては、母校こそが八十七歳の私に現在までの根性と健康とを授けてくれた意味での、生みの親であると信じ、感謝に堪えない次第であります。

未だに生存している私が、朝河貫一先生、高山樗牛先生、久米正雄先生などの有名な大先輩と部屋を列べて展示されることに、非常に困惑を感じ、固辞してきたのでありますが、眼科医として当然やるべきことをやってきたに過ぎない私にとっては、身に余る榮譽で大変恐縮しております。

更に昨年十一月二十四日には、東京都、ホテルオークラで福島県におけるこの年の県外在住功労者知事表彰者として不肖私も受賞の榮に浴し、これまた、感激ひとしをのものがあります。

東京桑野会会報、第十六号の百十周年記念号発刊を心からお祝い申し上げますと共に、会の益々なる発展と、会員各位のご健康とをお祈りしつつ欄筆します。

## 表彰状

今泉亀撒殿

あなたは多年にわたり医学界において學術の發展と教育の振興に貢献されました。その功績はまことに顕著であり、我が福島県の誇りであります。よってここに表彰します。

平成五年十一月二十四日

福島県知事 佐藤 栄 佐久



安積歴史博物館誌

福島県知事賞

弾性無限への挑戦

工業用ゴム製品の製造



- 代表取締役 伊藤 巖 (65期)
- 角田康夫 (71期)\*
- 面川祐一 (100期)
- 根本雅司 (100期)\*
- 佐藤誠幸 (101期)\*

本社 埼玉県川口市赤井2丁目13番11号 ☎334  
 埼玉県工場 電話0482(85)2251(代表)  
 FAX 0482(85)2254

福島工場\* 福島県西白河郡泉崎村大字泉崎字坊頭窪1番地  
 電話0248(53)3491(代表) ☎969-01  
 FAX 0248(53)3493

# よく遊べ

## 渡辺政右衛門（48期）

### ●釣り

安中生になっても餓鬼大将の座から降ろされないで、よく遊んだ。近所の年下の子供達が釣りの餌を用意して学校から帰るのを待っていた。

余り上手な方ではなかったが、獲物の大小にかかわらず大好きでよく出かけた。道具や餌には気を使わず、釣針は鯛針、きつね針等の小さいもので、それでも鯉（小型）、鯛、たなご、ほや、どじょう等には使い分けた。竿は一人が二、三本持ち堆肥用牛糞の中に絡み付いているみみずの赤い半分を餌にした。年下の子供を二、三人連れて下の川のめぼしい処から釣り始める。竿を下ろしてからの数分の胸のときめきはいまでも忘れられない。しかし魚はなかなか釣れない。誰かが、ぴきでも釣れると落ち着くのだが、二十分もすると小さい子からあきてきて、あちこち場所を替え始める。こうなるとさっぱり釣れないので川上の居そうな処に遡っては糸を垂れる。そうしてついに二軒程上の堰、鹿島池に着く。

水草（じゅんさい、ふさじゅんさい等）に覆われた池の空いた場所に狙って糸を垂れるが、竿が二、三本あるとこれがなかなか容易でない、そのうち別の浮子が引き出す始末。釣れだすと結局一本釣りに

なってしまう。考査中などは持っていた教科書はそっちのけだった。中休みすると夏は池に飛び込み泳ぎだす。夕空に鳥が帰る頃に雑魚の入ったバケツを下げて引き上げる。

また、学校の帰り道には永盛小学校（現安積小）の南を流れている笹原川の川岸の敷に竿を置き、はやとか鯛等の釣りを楽しみ、安積永盛駅前の食堂で帽子の記章裏の虎の子（定期券を忘れた時のために十銭玉二枚をとめていた。）でうどんを食い、一汽車遅れて帰った。

### ●修学旅行

昭和十年五月初め中学五年の修学旅行は日光方面だった。朝、郡山駅からの一行の汽車に途中須賀川駅から乗車、宇都宮で乗り換え日光駅に着いた。晴天で朱塗りの神橋をながめて東照宮に入る。案内人の説明を聞きながら見学する。徳川一代、精だめて造ったこの立派な建造物は優れた日本の文化財だと思った。陽明門の前で記念写真を撮り、見落とすような左甚五郎彫刻の「眠り猫」の下をくぐった。

次は中禅寺湖へ、ここでケーブルカー（ロープウェイ？）組と分かれて十人位で単独行動を取り、馬返しから「いろは坂」を歩いて登ることにした。時間がないので曲がりくねった坂道を道路に頼らず直行了したが、なかなかの強行軍で湖畔の神社に着いたのは、十二時半を過ぎて記念撮影には間に合わなかった。

男体山や中禅寺湖の景色もろくに見ないで、にぎり飯を噛りながらエレベーターで華厳滝の展望台に出た。

渇水期なので滝は湖水からは落ちないで岸壁の中

あなたの生活まるごと運びます

●お問合せ・お申込は

TEL (0423) 65-8100

◎一般引越



府中運送株式会社 代表 (0423) 65-1476

府中市白糸台1-23-10 新甲州街道白糸台1丁目交叉点角

遠藤征志郎（72期）

# 安中時代の思い出

佐々木 正 (50期)

名古屋大学名誉教授

腹から流れ落ちていた。夏の滝の素晴らしい景観を想像して写真を撮った。帰途、日光駅から宇都宮に着いたのは夕方五時頃で、二荒山神社の近くの食堂で親子丼を食い、汽車のデッキで当時流行の「旅笠道中」を歌って楽しく九時過ぎ須賀川駅に着いた。

安中を昭和十三年三月卒業したのでそれからもう半世紀以上になる。昨年四月一切の公職を離れ自宅で裕々自適の生活に入って八十日、この所特に中学時代のことを想起するようになったのはいいよ老人の境に入ったよ証拠でよく夢をみる。須賀川から朝七時の汽車に乗り、平日は四時、土曜日は二時の汽車で帰る生活を五年続けたが、二学年上の兄のすすめもあって郡山と須賀川との間の安積永盛(はじめは笹川といった)で下車し徒歩で田舎道を一時間かけて通学したが、このお蔭で自然の四季の移り変わりを楽しむことが出来、その後の健康づくりに大いに役立ったことは否めない。梅、桜、桃の花に始まりさらさら流れる雪どけの小川、学校の売店で購入したばかりの、香の残った新しい教科書を開く時の喜びと期待、新緑の風、秋の紅葉と秋の松風の音、万目百里の白銀の世界と吹きさらしの道、今でもはつきり覚えている。三年となって上級学校の受

験となったが、自宅で机に向うとすぐにねむくなり、歩き乍ら勉強できる英語や国語はよくて、小野圭の英語などは全部暗記してしまったが数学は駄目で、そのお蔭で四年からの受験に失敗し、五年の時に作戦を変え数学は問題集に限り、わからぬ問題は放課後大野三郎先生に質問した。中学時代の大きな思い出として、毎年行われたマラソン、行軍、二年の時の五十週年記念式典、時々講堂で行われた有名人の講演とその時の雑誌部員としての活動、四年の時の一週間にわたる修学旅行があげられるが、その時各駅でスタンプ集めに夢中になり引率責任者の松田祐吉先生に注意されたことを思い出す。安中卒業後入った高校(旧制二高)では独語と仏語を選んだので英語は安中時代のみとなったが、その後アメリカで数年住むことになったがその時奥山常夫先生、大坪肇先生にならったズーズー英語(ジとズ、イとエの区別がない)が大変役立ったことは面白い。中学時代は満州熱の盛んな時でひそかにロシア語を独学し、卒業アルバムにロシア語でサインしたが、この熱は今でも続いており、最近までロシア語の文献を購読していた。今顧みて有難いと思うことに多情多感の安中時代を通してよき師、よき友に恵まれたことで、その後の私の人生行路を形成するのに大いに役立っており、それは年をとってからよく判る。名古屋より東京に居を転じて十年、この所毎年東京桑野会の春の定期総会に出席するようにつとめているが、同級生の出席の悪いのに落胆させられる。これしか一堂に会して話合う機会がないのであるから大いにこれを利用して欲しい。また機があれば安中時代の旧師の思い出を書いて見たいとも思っている。

## 公認会計士 星 武典 事務所

ムアーズ・ローランド国際会計事務所所属

〒101東京都千代田区神田錦町2丁目5番地(KSビル3F)

TEL (03) 3291-8361 FAX (03) 3291-8465

星 武典(58期)

# 私の思い出

## 紫野 巖 (55期)

ファイザーヘルスリサーチ振興財団理事長

父紫野莊三郎が安積中学校の教職にあったので私は昭和十四年迄十四年余を学校内にあった官舎で育てられた。当時正門を入ると直ぐ右側のところに奉安殿が在り、官舎がそれに続き二軒の構成で紫野家は奉安殿側に位置した。現在は駐車場になっている。私は中学一年を修了した後、軍人を志望したので仙台陸軍幼年学校に転校した。従って生徒としては一年しか在学していないが、物心のついた開成小学校（開成山に所在しその創立は安中より更に数年前）の頃から入ると在校内年数は生徒の誰よりも長く、安中の思い出は多い。開成小学校には毎朝、安中の西の裏門から通学した。放課後の大部分は安中校内で過ごしたので当時の我が住家は安中そのものであったわけです。

当時安中の生徒の相当多数が寄宿舎で寮生活をしてきた。寄宿舎の管理と寮生のお世話をする人に村上さんがいた。村上さんは学校のラッパ手の役も兼ねていた。よく肥っており、背筋の通った大変姿勢のよい方で、時間、時間にラッパを吹く村上さんの面影とその唳としたラッパの音が懐かしく思い出される。村上さんは奥様と一緒に寮生の食事も作っ

ておられた。準備をする食料の量の余りにも多いのに驚いた。時々ご馳走になったこともあった。

寮の先輩との接触も楽しかったが、私の最も熱中したのは、中学生先輩の部活動であった。野球、陸上、柔道、剣道、弓道等々安中の部活動は大変盛んであった。先輩の練習を見、先生やコーチの指導に熱心に耳を傾け、自らも物まねで練習をするという繰り返しで、スポーツを楽しむ基礎を作って頂いた。今ではとても感謝している。特に陸上と体操の吉田先生、柔道の浜崎先生には面倒を見て頂いたことを懐かしく思い起こしている。六年生の夏休み以降は入学試験に備えて放課後小学校で特訓を受けたので、中学校で遊ぶことが出来なく閉口した思い出がある。開成小学からは岩田、高野、小川とわたしの四名が安中に進学したが、今では小川と私の二名になってしまった。

昭和二十年八月少尉に任官したところで終戦となり、アメリカ留学そして、就職というコースを歩んだわけだが、戦後の心の支えの一つとなったのは東京の日々好会である。安中の同窓ということと共に会い、語り合ったことが私共の何よりの心の支えとなったことである。幹事役をされた日向君、現在幹事をされている結城君始め多くの学友に心から感謝している。

日々好会を通しての戦後の安中との思い出も多々あるがこれは又の機会とさせて頂き、最後に近況を申し上げる。私は現在、事業の現役職を勇退し、ファイザーヘルスリサーチ振興財団の理事長として健康関連の研究振興のお手伝いをさせて頂いている。又今年度は国際ロータリー第二七五〇地区のガバナ

## 株式会社 東京シンクサービス

- 業務 特許公報の抄録・翻訳、工業技術の指導・調査
- 特色 高齢者の雇傭  
(全従業員91%が60才以上、70才以上は54%)

〒101東京都千代田区内神田2-13共同ビル  
電話 (03)3254-5805  
代表取締役 鎌田 正二(43期)



# 最後の政商

―を仰せつかっている。各地で同窓の方々のお世話になつてゐる。統計上漸く高齢者に仲間入りしたので「壮心已まず」をモットーとして心に張合いを持たせるよう努めている。お蔭で毎日を元気に過ごさせて頂いていることをご報告申し上げ、筆を擱きます。

## 上野敏夫 (55期)

安積会弘前胃腸・形成病院院長

十一月八日の朝刊に、小針曆二氏（福島交通会長・福島民報社長・44期）死亡の記事が大きく記載されていた。昭和四年、旧制安積中学校卒。金丸・竹下両氏の親戚で、東北の政商といわれ、政界との密接な関係が指摘された人である……。

金丸脱税に端を發した自民党の崩壊は、新党の発足となり、ゼネコン汚職の摘発、宮城・茨城両知事、仙台市長の逮捕となり、日夜、新聞紙上をにぎわしている。政治改革四法案も、平成五年十一月十八日、衆議院本会議を通過したので、ようやく日の目を見るであらう。

さて政商とはいかなる者か。辞典を繙くと政界などと特別関係にある商人であると書いてある。小生の記憶では、日清戦争に際し三井、三菱の両財閥が

功績があり、男爵を賜つたとある。三井、三菱は当時の所謂政商ではなからうか。

小針氏は金丸氏にヤミ献金を割引債で所持する方法を勧めた。その為、入院中の小針氏に衆議院予算委員会が臨床尋問を行い、東京地検特捜部も参考人聴取したとある。佐川急便事件にも小針氏の影が度々垣間見えたとのことである。以上の記事に依ると、ちらちらと有力政治家と関係を結び、何か悪いことをしてきた風を受けとめかねるのである。同級生に小針恒也君が居り、安積中学校の後輩として黙することは出来ない。安積中学校卒業後、炭鉱で働くなどをした後、種々苦勞をして福島交通、福島民報の両社長となり、社会に貢献した業績は安積の誇りといえるだろう。特捜部長の宗像紀夫検事（73期）も複雑な気持ちで小針氏の聴取を指示したものと考えられる。

ともあれ、これからの実業家は時の政府と特殊な関係を結んで事業の拡大を計ることは不可能に近く、小針氏を以て二十世紀の終わりといえるだろう。所謂、最後の政商である。

猶、去る十一月二十一日午前十時に青森朝日放送で、小針曆二氏の政界人脈について、サンデープロジェクトで特集された。

—— 青森県桑野会会報第22号より転載



株式会社 渡辺電務社

電気設備設計施工

本社 東京都江東区三好1-1-2  
電話03-3641-0136 (代表) 〒135  
千葉営業所 千葉県千葉市中央区都町2-5-1  
電話043-231-9287 〒260

取締役社長 渡辺豊定 (58期)  
(旧姓沢村)

# 腐っても鯛は鯛

## 柿沼良訓 (63期)

前福島県立磐城女子高等学校校長

私が安積に入学したのは太平洋戦争末期である。兄二人が安積に学び、姉は安女に在学中で、当然私も安積中に入れるものと父母は決めていた。

当時、私の家は田村郡の奥にあり、安積を受験するには少し不利であった。

学ぶ小学校は五・六年生で計二十人、同じ教室で複式教科書を使って授業を行う小規模であった。生徒は卒業後大部分が農業に従事するか、隣村の大規模校の高等科に入るかなどで、中学校に進学するのは隔年一人位であった。

私の父は厳格で教育に関しては絶対に妥協しないところがあった。その一つに「子供を全部安中、安女に入れる」があった。従って兄弟姉妹は6人とも全員安積と安女に入学している。

その頃、田村郡の小学校からは大体において田村中学に入学していた。遠い郡山にある安積中学を受験するのは私にとって大きな強制になった。村でただ一人中学に進学する、しかも安中を受けるということが心をしめつけた。

担任の先生も、お前が安中に受かったら、この小学校開校以来の秀才ということになる、などとお

しゃる。私は心身症に陥るほどであった。

田村郡では田村中の評価が高く、郡山の安中生は不良ばかりであるとか、安中を卒業して出世は不可能だ等々村会議員が私の家に来て話していた。

折しも県南中等学校合同大演習が行われて、安中生が演習中に電線を故意に切断するという事件を起こした。新聞は大々的に安中生の行為を愚笨と書きたてた。

私は安積に入学して級友に接したり後年計らずも安積の教壇に立って後輩に教えることになってつくづく思ったのであるが、安積の生徒というのは皆明朗闊達にして進取の気象に富み、感性豊かにして自由奔放の気を漲らせているのである。そういうことを田村郡の人達は知る由もなかったのである。

田村郡の識者は異口同音に伝統校安積中の教育は地に落ちたと評した。

私の安中受験の気持ちが次第にぐらついた。或る日、私は父にそっと言ってみた。「おれ、田村中うげっかな」

父の声が響いた。「なに言ってるんだ。腐っても鯛は鯛だ！ 安積だ！」

この一喝で私の心は定まった。安中合格を目指して猛勉強を開始した。

入試の日、担任の先生に付き添われた私を村外れまで父は見送った。入試の控室は柔道場であった。

金透、芳山、橘などからは多数受けに来ていた。その中に、小学校二年で郡山の金透小に転校したN君がいた。町場の言葉で私に話しかけた。「おめさんも安中うけに来たのかい」

昼食時、朝早く母が渡してくれた紫蘇の葉でくる



株式会社 櫻井淳計画工房  
J. SAKURAI PLANNING ASSOCIATES

櫻井 淳 (78期)

〒150 東京都渋谷区桜丘29-24 秀和桜丘707 PHONE. 03-3462-4161~2 FAX. 03-3462-4163

# 安積に学びしお陰

中野孝夫 (63期)

東燃テクノロジ―株

んだ梅干し入りのおにぎりを私は黙々と口に入れた。N君は肉や魚そして玉子焼までつめられている豪華な弁当を私に見せながら食べた。

合格発表の日、私は父と磐越東線で郡山まできて、駅から開成山まで歩いた。向こうからN君が来た。「あだつたがい」声はずませず私に聞いた。「だめだった」との返事。その瞬間私の足は萎えてしまった。玉子焼が受からないなら紫蘇の葉っぱは到底あたる筈がない、と思ったからである。

父に叱咤されて安中までは辿り着いたが私は合格発表板を見ることができなかった。数秒後、あたりを憚らない父の声がした。「良訓あだつたぞ！」

それは何と言っても「足腰」の強化である。転入時、安積迄距離があると言う事で、取敢えず駅前の親類から通学となったが、都会育ちの私に取っては学習より毎日が遠足、否歩行訓練だ。安中まで往復二里八キロだ。それでも隊列を組んでの通学が否応なしに順応して行った様で落伍せずに済んだ。自信もついた所で、自宅からの汽車通に変わり、これまた駅から半道往復四キロ、一日十二キロ、安中・安高と六年間、靴と朴歯の高下駄で開成山や安達太良や

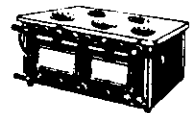
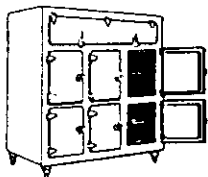
遠く磐梯山に囲まれた安積野の四季の変化を満喫しながら通学が出来る様になった。そう言っても、天気が良く快適な日ばかりではなく。敗戦にも有る磐梯風の寒さ、それに雪でも加わろうものなら耐え難きと言う所だった。最後には堪り兼ねて、全国に先がけてスクールバスを実現させる副産物もあった。安積時代のこの訓練が効を奏してか、安積を出てからこれと言う運動らしいものを継続的に行った事も無いにも拘らず、他人にも不思議がられる位足腰には頼れる。何故かと他人に問われると、安積時代の六年間の毎日十二キロの徒歩の話をするが、反応はそんな辺鄙な所の学校に行っていたのかと言う。東北本線開通以前の新校舎であり、高山、朝河、久米大先輩を持つ安積のPRにこれ勤めて居ります。

その余勢を駆って、こゝ何年か四国、九州に行く機会が多かったので、屋久杉見たさに、宮浦岳に、四月末一陣の風と共に霧氷の見られた石鎚山、蝶が乱舞していた剣山と何れも写真器材を担いでの山行きとなった。それまで若い頃に白馬に一度登った以外山など考えた事もなかった者がである。更に写真が全日本山岳写真展や山の雑誌のフォトコンテストに入選した事もあって、益々火に油を注いでいるような状態である。これも質実剛健の安積に学びしお陰と感謝して居り、これからの人生に大きく寄与するものと考えて居ります。

最後になりましたが、母校安積の百十周年を心からお祝申し上げますと共に今後益々優秀な後輩が輩出することを期待して居ります。

## 総合厨房設備工事 設計製作施工

サービス工事もお気軽に御申付け下さい。



株式会社 **田崎製作所**

会長 小濱精吾 (58期)  
社長 堀江 守

本社藤岡工場 栃木県下都賀郡藤岡町大字藤岡872番地  
TEL 栃木藤岡 (0282) 62-2678(代)  
FAX(0282)62-9579  
東京支店 東京都足立区弘道1丁目29番7号 TEL(03)3880-4865(代)

# 安積中学の思い出

大内 孝明 (64期)

国民健康保健中央会・広報部長

「百十年は長いか」と問われればやはり「長い」と答えざるを得ない。創立百十周年という歴史と伝統の重みを考えると、そこに学んだ者の一人としてよろこびと厳肅な気持ちとが交錯する。

たまたま一昨年の初夏、磐梯熱海で開かれた三糸会総会（高校3期・64期）に出席し、翌日、開成山大神宮で還暦のお祝いを受けた後、安積高校を訪問、植樹に参加したが、国の重要文化財として保存されている旧本館の前に立つのは卒業以来、実に四十一年ぶりであった。卒業当時のペンキの剥げもなく、バルコニー式の玄関を持つ、重厚な洋風建築を前に、懐かしさと在学中の想い出が噴き上がって、しばらくは茫然としていた。

私が、旧制安積中学校に入学したのは昭和二十年四月、太平洋戦争の末期に当たるが、わが国は国を挙げてこの戦争に勝ち抜くことに集中、中等教育も戦時体制に組み込まれていた時代である。最初に頭にたたき込まれたのが、教育勅語、青少年学徒に賜わりたる勅語、軍人勅諭であった。

そして四月十二日、この日のことは今でも鮮明に覚えている。アメリカの爆撃機B29が、郡山をおそ

った日である。いつものように「朝礼」の後、「教練」の時間だった。午前九時頃に警戒警報の発令があったが、私たちは校庭の隅で四列横隊を組み、配属将校の訓示を受けているときであった。私は二列目にいた。十一時すぎ突然、下腹部を突き上げるような振動を感じた。それは断続的に続いたが、配属将校の訓示が続いており、この時点では、B29による爆弾投下とは知らずにいた。爆音とともにB29の姿が視界に入ってきたのは最初の衝撃音から五分程たってからだと思う。前列の同級生の国防色のズボンがふくらみ、ゲートルがみるまに濡れていくのと同時に、待避命令が出た。

この日、B29は、保土谷化学郡山工場や日東紡富久山工場を中心に多数の爆弾を投下したが、母校のある開成山地区は無傷だった。しかし、この爆撃で、保土谷化学に学徒動員されていた先輩六人が亡くなった。戦争が終わるまで勉強らしい勉強もせず、農作業などの勤労奉仕や郡山駅から海軍飛行場（現在の日大工学部）への航空機部品の運搬、その合間に手榴弾の投擲訓練、丸太ん棒での殴り込み訓練に明け暮れていたように思う。

当時、「人生二十五年」と言われていたと思う。それだけ若い命が失われた時代だった。それが現在では「人生八十年時代」と言われるようになった。半面、出生率の低下、核家族化の進行、高齢者世帯の増加などに伴い、老後生活の最大の不安ともいえる介護問題が大きな社会問題となっている。

学校の軍事教練、空襲。戦後の食糧難、復興。過ぎ去った日々には郷愁に似た思いを抱き、昭和という時代をしみじみ思い返す今日この頃である。

企業のリクルーティング・教育・販促PRビデオの制作

教育研修の企画制作は当社にご用命下さい。

経験豊富なスタッフが対応致します。



株式会社 **リュウコーポレーション**

代表取締役 渡邊 龍一郎 (81期)

〒151 東京都渋谷区初台1-47-4 第2加藤ビル1階

☎ 03(3373)7590 FAX 03(3320)8218

# 『21世紀に向けての展望について』

遠藤 修 (67期)

株式会社富士ハイエンジニアーズ代表取締役

平成六年九月に、母校・安積高等学校が創立百十周年を迎えることになり、卒業生の一人として心からお慶びを申し上げます。

安積歴史博物館となった、現行の建築基準法では建築が許可される事のない、歴史的な大変価値のある木造の校舎に学んだ私の、今日までの強く印象に残る体験を思い出します。

第二次大戦開戦の翌年に国民学校に入学し、戦争の渦中に低学年を過ごし、夏休みの最中に玉音放送を校庭の奉安殿の前で聴き、敗戦を知りました。終戦後は、新教育制度六・三制での授業を、日本の歴史を墨で塗り潰した教科書で受けました。

安積高校では日本史を選択せず、大学でも履修しなかったため、私は日本史教育を受けた事ありません。将来を展望する際に、歴史に照らして行う事が大切ですが、私には、必然的に歴史観が欠落し、狭隘で先見性のないものになる事をお許し下さい。

昭和三十年、大学生の時に、ソニーの前身の当時未だバラック建ての東京通信工業の本社工場を高輪に訪ね、開発したばかりのトランジスタやテープレコーダーを見学し、未知の技術に感激しました。

昭和三十四年、社会人になって一、二年後に、本技研工業の白子工場に、動力秤量計の立会で、開発中の自動車エンジンのテスト風景を垣間見た事があります。この小さな両工場が、ともに戦後を代表する「天才技術者」と並び称されてきた井深大・本田宗一郎両氏によって世界的な大企業、ソニーとホンダに育て上げられた。この会社をその播種期に訪問の機会を得ていた事は幸運でした。

昭和三十七年、勤を辞し、会社の経営に参画し、必然的に好況・不況、景気の山も谷もひとつひとつ身をもって体験しました。本田宗一郎氏は、幸せな経験もつらい経験も、氏には全てが大切で、どれ一つ欠けても、今日の成果を築き上げる事が出来なかったと言っています。私には、大変示唆ある共感を覚えた言葉です。

さて、首記題について記します。

今日の日本は、国民総生産がアメリカに次いで世界第二位の経済大国になり、一方、バブル経済の破綻から平成不況の真っ直中にあります。産業界は挙げてリストラを模索しています。幸に我が社の経営は順調に推移しています。しかし、日本がこの不況から脱出するには、今後数年掛かると思います。不況の影響は避けられないと覚悟しながら、独自性をもって着実にエネルギーや環境関連機器・装置、鋼構造物、煙突、容器、塔槽類を設計、製作、建設し、地球環境に優しく、自然と共生し、地域の景観に適合させ、人々の暮らしに役に立つ事に努めながら二十一世紀に向けて邁進します。

## 営業品目

- 煙突・公害防止関連機器
- 貯槽・塔槽類
- 鋼構造物

## 上記品の

- 設計・施工監理
- 点検・調査・診断
- 製作・建設



株式会社 富士ハイエンジニアーズ

一級建築士事務所

〒105 東京都港区新橋4丁目21番7号

つるや加藤ビル

TEL (03)3434-1611 (代表)

代表取締役 遠藤 修 (67期)

# 『記憶の中の母校安積』

## 武藤節義 (67期)

東洋大学法学部教授 弁護士

安積高校が創立百十周年を迎えようとしているという。その長い道程を思うとき、感慨深いものがある。年々歳々心躍らせる新入生を迎えそれぞれの思い出を胸に多くの生徒が巣立っていったことに思いをめぐらすと百十年もこれを見守ってきた母校の歴史の重みを感じずにはいられない。

今冬十二月初旬、機会があつて暫く振りで郡山の駅に降り立ってみた。商工の中心として、また、文化都市を目指す郡山の街並は次第に変貌を遂げ、高校時代の記憶に残る郡山とは全く様変りて懐しい食堂・映画館・本屋などその所在すら定かではない。これと対照的に北の空を劃する安達太良連峰だけは当時のまゝに望まれた。

新制高校への移行から幾年も経ていない昭和二十六年四月、私は石川郡の僻村から憧れの安積高校に入学した。洋風本校舎の堂々たる威容は如何にも知識と文化の殿堂に相応しく映り、入学式での校長訓話の中で、今日の感激を忘れずに努力して欲しいと言われたことは、私の胸中を言いあてたような言葉であつたことを憶えている。

徒歩通学が原則であつた当時は、街中の麓山グラ

ンドの傍を通り約四キロの道を歩いたが、途中の菜根屋敷などは文字通り丘陵を連ねた農地であつて、僅かな人家が点在する田舎道にすぎず、学校に着く頃は腹を空かせて、早弁が流行していた。

図書室か会議室の壁には卒業生である著名人の肖像写真が飾られており、東京帝国大学の総長のものが幾つかあつたり、エール大学東洋学教授の写真などもあつて、名門高校の伝統を実感したことも憶えている。

課外活動もなかなか盛んで、終戦後間もないこととて、欧米文化のとり入れには特に関心が強く、人氣のあつた洋画については学内誌「ウインドウズ」が発行されていて評判も高かつた。

当時、高校野球としても仲々のもので、野田投手を擁し県大会で優勝したが、東北大会(福島・宮城・山形)で福商に敗れ甲子園への夢を逃したものの、華やかな応援に参加したことなど懐しい高校時代の思い出である。

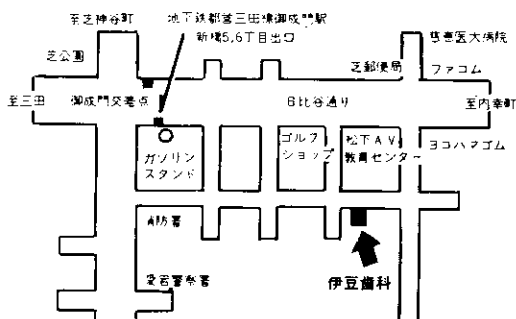
在学中に、サンフランシスコ市で平和条約が締結され、国際関係としても戦後処理が一応の決着を見たが、この会議に新聞社の特派員として取材にあつた先輩が来校して、その状況を全校生徒に生き生きと報告をしてくれ、将来の日本は諸君達のような若者の双肩にかかっている、今後は国際社会でも活躍できるようにしっかり勉強すべきであると励まされ、感激したことを憶えている。

卒業後四十年にならうとしている現在、在京の同級生と思ひ出話と級友の消息を尋ねあうことが多くなっている昨今ではあるが、年を経るほどに高校時代の懐しさが増してくるようである。

- 健保取扱
- 電話予約制
- 休診日：木、土、日、祝日
- 診療時間・10:00~13:00 14:00~17:30

## 伊豆歯科医院 74期

港区新橋6丁目2-8  
電話 (3434)0231



# 我が安高時代

## 増子邦雄 (71期)

山下新日本近海汽船取締役

昨年一月、安高時代の同期生佐藤栄佐久君（現福島県知事）と久し振りにゴルフをした。

お互いに五十路も半ば近くなると、体重増が気になり何となく足もとおぼつかなくなる。やはり月に二、三度はゴルフでもやって足を鍛えた方がいいということになり、ああ、そういえば安高時代はよく歩いたから、今でも飯豊山にでも登れるんだなんていう冗談が出た（佐藤知事は三年程前に飯豊山に登った）。

安高時代は、家が近所でもあり、中学時代からのクラスメイトでもあった佐藤君、相楽光男君（三菱油化取締役兼波研究所長）や斎藤久雄君（千代田化工建設取締役）、今はじき鈴木健雄君等と高下駄ばかりで安高まで四キロの道を歩いて通学したものだ。帰り道に開成山名物のタンゴを買い込んで、満開の桜の下で花見と洒落こんだのもその頃であった。ただし、歩いたのは一年生のときだけで、二年生になつたら自転車通学となり、三年生の時はバス通学となる体たらくであった。

それでも、あれは確か昭和三十年、安高一年生の時であったと思うが、佐藤君をはじめ我々仲間、

夏休みの或る日、夜も未だ明けやらぬ頃、自転車で郡山を発ち一路岳温泉をめざした。

岳温泉の旅館街に何時頃着いたのか、今では全く憶えていないが、温泉街の突き当たりである安達太良山登山口で自転車を乗り捨て、山頂をめざして一気に駆け上がった。

当時はロープウェイなどという便利なものもなく、初めから頼りは自分の足だけ。片道十三キロの登山道をスタスタと登り、そしてまた駆け下り、あとは自転車で朝米た道を逆戻り。途中本宮町で、佐藤君のいとこ、佐藤仁一君の家で、晩飯をご馳走になり、郡山に着いたのはなんと夜の十時を過ぎていた、という今から思えば全く無茶苦茶なことが平気で出来た時代であった。

昭和三十年当時、あの旧四号国道の道で本宮町までの約十五キロの間に出くわした自動車はわずか数台にすぎなかった、という時代であったからできたのであろう。

ちなみに佐藤知事は、日頃の登山での足腰の鍛練のせいか、ゴルフのスコアは41、43と誠に見事であった。



清潔・快適環境を創ります

株式会社  
**ローズ・ビルサービス**

福島県郡山市深沢一丁目2番10号  
TEL 0249-32-6069 FAX 0249-32-6099

代表取締役 遠藤 榮重 (64期)  
取締役専務 遠藤友紀晴 (92期)

# 外食の普及に思う

## — J A (農協) の使命

今川直人 (75期)

全国農業協同組合中央会 (JA全中) 総務部長

最近是不況のために伸び止っているが、飲食費に占める外食費の割合は長期にわたって上昇を続けている。一九七五年に十一・三%であったものが現在十六%を超えている。特に農家世帯は四・四%から十一%強と伸びが大きい。

その理由であるが、これまで、収入増、少子・核家族化、女性の就労化等が外食化を進めるとされてきた。

ところが、最近おもしろい説に接した。一緒に旅行中のことで、非公式のはなしであるが、昭和薬科大の楠教授(心理学)によれば、女性は本来炊事が嫌いであるというのである。古来、料理をする事、上手な事が女性らしさの象徴とされてきたため、独身者も主婦も「料理好き」でなければならなかった。それが今、そのような人為的観念が徐々に崩れて、女性がその本性を取り戻しているというのである。

同じ傾向の延長線上で、家庭料理も様変わりし、加熱するだけの加工・調理食品のウエートが高まってきた。

このことは、農業生産部門の相対的低下をもたらす。農業の地位の低下は、労働力、粗生産額、付加

価値(所得)等各種の指標で示されるが、実態をよく表し、また我々農業関係者にショックと同時に一つの示唆を与えるのが、国民の食費支出に占める農家の所得の割合、即ち食費の農業分配率の低下である。二十年前には二十%あったものが、現在九%になつてゐる。消費者に千円払っていただいた食費の内、農家の所得に回るのは一割以下で、あとは生産

資材メーカー、流通業、外食産業等関連産業による付加価値となつてゐることを示すものである。多くの素材型産業と同じ歴史を辿つてゐるわけであるが、これを必然とすれば農業の退潮は歯止めがきかなくなる。

衣・食・住と並列されるが、「衣」において素材型産業からの脱出がみられた。繊維産業からファッション・アパレル産業への転換である。この転換によつて、繊維業界はかつての構造不況業種から、成長産業に変わりつつある。

農業部門が相応の付加価値を実現しようと考えるとき、自らの外食事業へのより積極的な取り組みは中心的課題でありこの繊維業界の転換は良き先達となる。その担い手は、JA(農協)グループである。米や生鮮食品など、加工度が低く生産者価格が消費者価格に近いもの、つまり農家のコスト低下に努めることは、消費者のもっとも期待するところである。これもJAの任務である。

やるべきこと、そしてその前にやるべきこと。JAの課題は多い。

今もかわらぬ健康の喜びと味の文化をお届けして30年

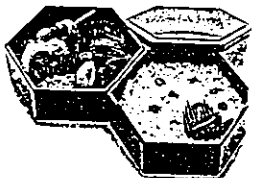
弁当給食 & 仕出しのパイオニア

仕出し部 あさか野

〒963 郡山市細沼町3番20号・協同組合郡山商工給食センター

理事長 小針良雄(67期)

☎ 0249-33-2357・FAX 0249-33-2769





# 安積の思い出

柳田 力 (75期)

大日本運輸株

年の瀬もおし迫った師走の初め、一通のハガキが手元に届いた。「75期うわさの新聞」第10号である。これは恩師と安積75期生の消息とその時その時の安積に関する情報をミニミニ新聞の形式でまとめあげたもので、熱海でホテル紅葉館を営む村田英男君が多忙の中編集、郵送してくれるものである。まったく頭の下る思いと共に、心待ちにしているものの一つである。記事文中にはなつかしい仲間の名前とその活躍ぶりが紹介されており、たちまちタイムスリップして安積で過ごした三年間の思い出にひたることができるという訳である。

その三年間で最も印象強く残っていることと言えば、昭和三十五年九月の事件である。いわゆる60年安保にかかわることであるが、小難しいイデオロギー問題は抜きにした小生とクラブ活動との関係においての事件であった。

片田舎の中学校からあこがれの安高に入学したのは昭和三十四年四月。創立七十五周年を迎える記念すべき年である。クラブ加入には迷うことなく新聞部を選んだ。当時の部室は本館二階の、正面玄関バルコニーに面した一室で、正に安高のヘソに相当す

るところにあった。先輩から新聞編集の基本である大見出しのつけ方、割付けの技法などを教え込まれ、校内にあっては諸先生方や、各クラブ幹事への寄稿依頼、市中に出では広告掲載依頼と飛び回った。インターハイの時期には、取材のため運動部と行動を共にした。こうして取材・編集された原稿を印刷する段になれば、福島民報本社に持ち込み、プロの指導を受けながら完成させた訳である。このプロの指導を受ける時は、公欠と称して福島市まで出向くことになり、思い出の一つとなっている。

さて話を戻すと昭和三十五年は小生が新聞部長の時であり、世の中は「安保問題」で明け暮れた年であった。我が新聞部でも特集として、当時の安高生の安保問題に対する意識アンケートによる分析記事を掲載する予定で作業を進めていた。クラブ顧問担当教師を交じえての編集会議を経たうえで決めたことであったが、印刷寸前のところで掲載ストップの学生部長命令が届いた。高校生新聞に政治的・思想的な記事はふさわしくないとの理由で……。当然の如く新聞部は大騒ぎ。「当局の不当干渉だ」とか「言論への不当介入だ」とか息まいたものである。

抗議の意を込めて予定稿の部分を黒ベタとか空白のまま、発行しようとの意見もしたが、後日学校長との話し合いを持つことで、代りの記事で紙面をつくり発行に間に合わせることにした。そして学校長との話し合いの席上に届いた臨時ニュースは、浅沼稲次郎社会党委員長刺殺というものであった。それが昭和三十五年九月の思い出である。話し合いの結果は新聞部の意見が通り、棚上げされた記事は後日掲載となったが、記事の鮮度はもはやなかった。

●収容能力14万トンの業界大手

## 五十嵐冷蔵株式会社

(冷蔵・冷凍食品・低温運輸の総合エンタープライズ)

〒108 東京都港区芝浦2-10-5

TEL 03(3451)1111 (大代表)

03(3451)0112 (直通)

FAX 03(3451)1114

東京桑野会会員

専務取締役

古田弘俊 (第52期)

兼営のレストラン「ヤム・ヤム」TEL 3769-1151  
(JR田町駅から徒歩7分の本社構内の駐車無料、  
年中無休)は、会員のご家族やクラス会などに大  
いにご利用頂いております。

なお、右の『直通電話』にご連絡下されば、予約  
も承ります。

# 南風の吹く

## 日本の南の玄関口よび

上野光三 (75期)

株國場組 営業本部付部長

日本で唯一、亜熱帯地に属する沖縄、それは東西千km、南北九百km有人島四十八島を含む百六十の島を擁し、全人口百二十三万人、年平均気温は22℃、飛行場は那覇国際空港をはじめ、民間十三、米軍二、計十五カ所の空港がある。

「琉球」も「琉球の風」の大河ドラマで報じられた様に独立した王国の形態を取り、中国・朝鮮・東南アジア諸国との海外貿易を通じて、各国との文化を取り入れ他県にはない独特な文化遺産が数多く残っている。琉球王国は薩摩藩の侵略を受け、明治維新まで同藩の支配下におかれ明治十二年の廃藩置県に伴い沖縄県となった。その後沖縄県は、今次の世界大戦で唯一、地上戦を経験し、昭和二十年アメリカ軍に占領されて以後二十七年間の長期にわたりアメリカ合衆国の統治するところになった。昭和四十五年五月に日本に復帰し新生「沖縄県」として歩み始め、十市、十五町、二十八村の自治体がある。

その大戦に関し第三十二軍総司令官牛島中将の奥様、御子息は郡山に疎開し昭和二十五年頃、安積高校に在学したと聞く。牛島中将の最期の割腹姿をデザインした「黎明の塔」の近くに我が「福島の塔」

があり、磐梯山デザインの塔の中に福島出身の戦死者六万七千人の英霊が祭られ毎年十一月六日には福島県知事はじめ約百名の墓参団でそこそかに戦没者慰霊祭が行われる。「沖縄福島県人会から毎年五十名参加」

生まれ故郷の墓参りもままならず、年に数回の塔の清掃と参拝をさせて頂いている。

### ●沖縄と福島の関連

福島県人は沖縄県人から、かなり信用を頂いている。

沖縄は薩摩に虐げられた。その薩摩と戦った会津琉球時代、食糧事情にかなり窮した年、どの他県より先じて福島県が米を送ったという実績、現代版タイン、アメリカの対日「米」問題と同様である。そして何よりも共通点は人情味厚く、義理に堅い事と信じている。

紺碧の空と海、平均気温22℃、オゾン度が高く「珊瑚アイランド沖縄」には過労死はない。仕事、生活で追いつめられ、又責任の追求等で企業戦士(死……)的な感覚はない。今日生きているのだからその後の事は余りバタバタするな(争ったり他人を蹴落したりするな)の思想が長寿県日本一の原点?に對し短命県の代表福島奥会津の方々が、毎年中高年代三十名程度来沖交換会などを通じ「長寿」を学んでいる。また、現在、琉球大学医学部に「沖縄の長寿」を専門的研究している松崎教授、法医学部々長、永盛教授も福島県出身者であり非常に高い貢献をしている。

### ●沖縄の生物達から

人類より数紀前から生息しているサンゴと蛇(ハ

「本づくり」の最初の一歩からお手伝いします。

●自伝 ●エッセー ●同人誌 ●詩集 ●句集 ●趣味の本etc.



編集・印刷コーディネイト

Tanaka bldg. 1F  
3-1-1 Higashi-Komagata Sumida-ku Tokyo  
〒130 東京都墨田区東駒形3-1-1 田中ビル1F  
☎03-5608-2159 FAX03-5608-9745  
株式会社バンオフィス ●川鍋昭彦

■コンセプト作りの段階から編集・校正・デザイン・印刷・製本まで、一冊の本が生まれてくる過程をいっしょに楽しんでみませんか?

■テープ起しやフロッピーからの編集もいたします。

プ)について、サンゴ(その他の海中生物)を観る。猛毒のハブの怖さ、という観点から、逆に見られている人間。問いかけてられている地球環境、——サンゴ達は年に一回決まった月の大潮の満月に大産卵、一匹一匹の魚達は全て振動、音等を判断する能力があり、私の大東島での経験では、あの「三歩、歩く」と物を忘れる「ワトリ」が台風が来る二、三口前から物すごい餌食い、台風時の四、五日飲まず食わず平然としている姿。自ら人を襲う事のないハブ。どの生物も周波数を発し、また受信し、生きている。海が汚染されサンゴの死滅、その地域にはウニだけの異常発生、それは子孫存続の他、末期的現象で大量の産卵となる。

(山の木材の伐採その植林は殆んどが杉、杉の枯葉が酸性土壌となり根が弱る、強い風でもないのに倒れる。それ故に杉の子を多くつける、よって花粉症というのが最近やたらと多い現象と似ている。) 因に沖繩には花粉症はない——よってここでは自然界から教えられる事が多い。

●沖繩での十五年の生活と今後の展望

今後東洋一と言われている米軍基地が数年後に返還された時、二十四時間態勢で運営の飛行場、外国に行かなくとも外国優良大学への入学、香港並みの無関税店、厳寒地ロシア・シベリアからの沖繩への直行便、冬の-20℃の世界から+25℃の毛皮のコーストの銀世界から、輝く太陽あ！熱帯地沖繩でハイレグの白い肌が、サンゴの島にはえる想像が実現に一步一步進んでいる。今春開港した福島空港に沖繩の、日本トランスオーシャン航空の直行便の就航実現に我々も努力している。現在沖繩には安積高校出

身者が黒羽亮輔氏(87期)の一人だけであるが、「沖繩の黄金言」に  
肝で似て顔氣買え(心の美しさは顔にまざる)  
出き合えば兄弟(出会いは兄弟)  
という諺がある。

他人でも出会った人は皆兄弟、と思い親しくして頂き、守礼の国沖繩で、日本の最南端沖繩で素晴らしい先輩に順じ仕事をした……と考える。



アイディミック  
クニ

文部省、  
福島県の動きと共に、

安積高校の教育にも  
新しい動きが!!

一九九四年(平成六)四月から、改訂 度めの学習指導要領が実施段階に入ります。安積にとつての課題の一つは、男女共修になった家庭科をどのように履習するかということがあります。

この数年、行われてきている高校入試改革、平成六年度から、全校・全学科で推せん入試を実施することになりました。数年前から実施していた理数科に加えて、普通科でも推せん入試がとり入れられました。

教育制度の面では、県教育委員会は、男女共学をすすめる方向を検討しています。大学進学希望者が100%に近い数であるため、学向上、進学率向上ステップアッププランをとってきていますが、百十周年を期に、安積の教育も様変わりするかも知れません。

(桑野会校内事務局 仲村哲郎66期)

# 福島県・郡山市・安積高

小松兼一 (81期)

国土庁地方振興局山村豪雪地帯振興課長

昭和四十二年に安積高校を卒業し、東京に住むことはや四半世紀、この間、国家公務員という職業柄の故もあり全国方々の出張先等で出身地や出身校を紹介する機会が多いが、いつも同様の体験と戸惑いを経験している。

まず、福島県の郡山市という地名とその位置については、殆どの場合スムーズに理解される。福島県が山地で三分割され、郡山市は「中通り」の中心に位置すること、磐梯山や猪苗代湖との位置関係等は、むしろ相手側の方から知識を披露されることも度々である。

しかしながら、郡山市に関する知識は、多くの場合、目的地への途中通過に際して得られたものであるようだ。郡山市の印象、魅力を尋ねても、具体的な出等はあまりないためか、イメージは弱く、曖昧な反応しか得られないからである。

さらに、出身高校を述べる段階になると大いに苦労することとなる。

残念ながら、いきなり安積高校出身と自己紹介して、直ちに理解してくれる人は、福島県、あるいは周辺の県の出身者に限られる。

何よりも「安積」という文字の説明に一定の手順を踏む必要がある。普通は「安らかに積むと書いて『あさか』と読みます。」と説明する訳であるが、それだけで得心してくれる人は少ない。「安積疎水」の『あさか』です。」という方法は相手が農林水産省関係者である場合や日本近代史に詳しい人である時はかなり有効であるが、そうでない限りはかえって混乱に陥ることになる。最近では「プロ野球の中畑コーチの母校である安積商の『あさか』です。」という具合に、他人の出身高名を借用することも多いが、それで納得してくれるケースが案外多いだけに何か割り切れなさを覚えることとなる。

さらに、郡山市に所在する県立普通高校の名称が何故に『あさか』であるのかの説明となると、自身「郡山」や「安積」の地名の由来はうろ覚えであることもあり、それ以上の説明は断念することとなる。

という次第で、郡山市や安積高校の紹介を通じて相手方との会話が弾み、一層のコミュニケーションが図られるというような理想的展開は残念ながら極めてまれであるが、一方、同じ福島県でも会津出身者はかなり様相が異なるようである。言うまでもなく、会津の場合は、磐梯山、猪苗代湖等の全国へスでも有名な自然、観光資源を背景に鶴ヶ城や白虎隊、野口英世等の歴史、人的資源もまじえることができ、強烈な地域イメージに恵まれている。したがって、たとえば会津若松出身者であれば、このイメージを適宜活用して、また喜多方出身者はラーメンや「蔵」のイメージも追加して、自己紹介に際しての自らの「衣装」とし、その出身高校も含め、実り

## トピックス

### 福島県立安積高等学校

#### 創立100周年記念行事

##### 及び事業について

桑野会のみなさん

私たちの母校、私たちを育てくれた安中、安高は、一九九四年(平成六)九月、創立百十周年を迎えます。安積高校の関係者ばかりでなく、市民・県民とともに喜び合った百周年の祝いから十年、あらためて安積の歴史をおもいおこし、二十一世紀へのあゆみを進めることとして、平成五年六月、創立百十周年記念会事業実行委員会を発足させました。実行委員会は、桑野会、PTA、桜桑会そして安積高校合同で組織し、会長には、桑野会会長の渡辺信雄氏が就任しています。

創立百十周年の記念式典は、平

豊かな会話に結びつけることができる訳である。

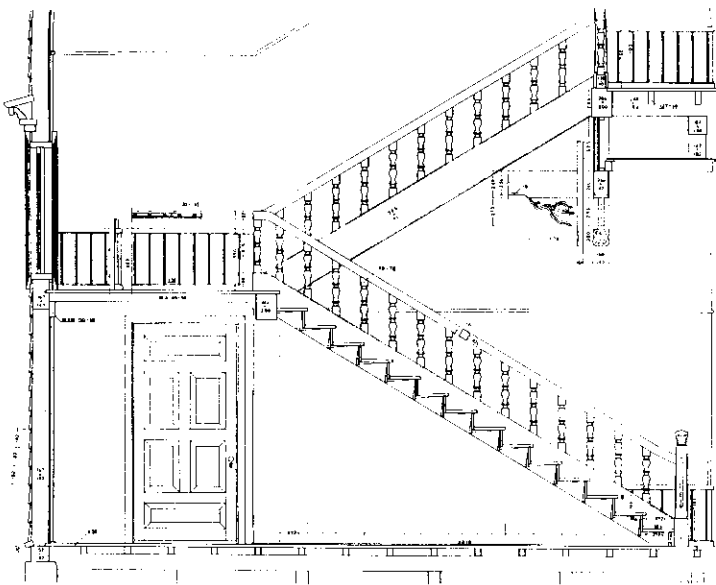
現在、全国の多くの中小市町村は、過疎化、高齢化の進展等の厳しい事態にあり、その存立への危機感から、様々な地域活性化方策への取組がなされているが、その際重要なキー・ポイントとしてその市町村独自の地域イメージの発見、確立が指摘されている。

幸いなことに、郡山市にあつては、地域活性化方策と称するような施策を改めて講じる必要性は少ないものと思われるが、そのことは反面では、地域住民が自らの地域のアイデンティティを探索したり、それを全国に売り出すという苦勞を分かち合う喜びを持つ機会がないということでもあるのだと思う。

勝手な弁解が許されるならば、我々郡山出身者が自己紹介に際して冒頭のようなまごつきを経験することの遠因の一つとして、郡山市の着実な発展という事情があると言いうるのかも知れない。

言うまでもなく、郡山市、そして我が「あさか」には、明治時代の安積原野の開拓の歴史や「万葉集」、「奥の細道」での記述等もある訳であり、また中山義秀、朝河貫一等の誇るべき諸先輩がおられる。これらの伝統、歴史をベースとしつつ、近年の郡山市の日覚ましい発展ぶりも加えるという基本ラインで出身地及び出身高校を紹介することは十分可能であり、それを適応すれば全国どこでも平均水準以上の自己紹介となるものと思う。特に、我が安積高校の場合、「あさか」という地域名を付した校名の故に、高校名を全国的に通用させることを通じて、郡山市の地域イメージの向上、確立に貢献することができると思う。

その目的からすれば野球部の甲子園出場が最も効果的であり、辛抱強くその日を期待したいと思うが自分としてささやかなPR役を果たすためにも、郡山の地誌等に対する見識不足と最近の動きに関する情報不足を解消すべく、(また親孝行のためにも)、郡山への帰省回数を増やす必要があると思つている。



階段詳細図

成六年九月三日(土)、安積高等学校体育館で挙行の予定です。同日午後、郡山市内の「ホテル・ハイツ」で祝賀会を行います。

記念事業としては、奨学事業として、生徒代表を海外に派遣し、国際化の動きに対応して、安積高校生の国際的教養を高めることと、「百十周年誌」の編纂の二つを決定しました。海外研修の場所は、本校4期卒の国際的知識人、朝河貫一が学び活動したダートマス大学、エール大学周辺、即ちアメリカ東海岸を予定しています。

これら記念行事、記念事業を成功させるための募金活動が、平成五年十一月からはじめられ、現在も継続中です。会員みなさんに広く協力を得たいと、在校生百十期を最も若い層として、会員に趣意書を送りました。

これからもよろしくお願いいたします。

創立百十周年記念事業実行委員会  
事務局



# 「館林市に住んで」

## 菊田利春 (81期)

群馬県館林市 助役

勤務の都合で故郷須賀川のほか秋田市、新潟市と東京以外のいわゆる地方都市に住んだことが何度かある。現在も館林市に住んでいる。

安積高校を出たのは昭和四十三年だった。青雲の志を抱いてというような気張ったわけでもないが、チャンスを求めるのなら大都会へ、つまりは上京するのが当然というのが大方の考え方であったし、自分もそう思っていた。さらに、現在もそうであるが、大学は大都市に偏在しており、田舎を離れざるを得ないという状況もあった。住んでみた大都会は刺激的であり、若さのせいもあったのだろう、まさしく期待どおりの場所であった。「都市の空気は自由」とは旧くから言われているところであるが、匿名性の気楽さを最大の価値と考え、都会でしか味わえないエンタテインメント享受を旨とした毎日を過ごした。

そうした大都会の持つ誘惑性は現在もいささかも衰えていないし、自分も結局辺々部とはいえ大都会に家を持つことになった。

その一方仕事では、都市計画を専攻したこともあって、東京にいても地方都市勤務でも、街づくりや

地域の振興ということに携わってきている。

そこで実感するのは、街づくりについても「地方の時代」はまだ端緒についたばかりだということだ。例えば、内在的な発意がなかなか出てこず、東京の指示に従う、または東京経由の先進事例にならうことが最大の安全策となるということ、先例や長老に気兼ねしてなかなか実行できないということ、波風を起こさない生活態度が最良であるとされること、などなど。また、地方には人も金も理念も機会も不足していると言われる。しかし、金はともかく、人的、物的資源はどこにでもあるものである。結局、思い切った跳躍者をいかに生み出せるかが活性化の鍵であるようだ。

さて、館林市は群馬県の東端、利根川と渡良瀬川に囲まれた、山がない平坦な地に開けた人口八万人の城下町である。世界一と自負するツツジの古木の公園があり、正田家所縁の地であり、向井千秋氏—宇宙飛行士の故郷であり、冬には白鳥が飛来する沼があり、とそれなりに名物もあるが、基本的には日本の中小都市の大部分と同じような、農工商バランスのとれた落ち着いた、悪くいえばもう一つ元氣不足の街である。

この街に新しい息吹きを育てていくことが現在の仕事である。議論仲間でもあるJCMメンバーが「よその」「わかもの」「ばかもの」「こそがまちづくりの主体であるべきだと息巻いていろいろな事業を展開しようとしている。自分には「よその」であることが期待されているようで、複雑な気持ちであるがその心意気やよしである。

露伴は「一国の首都」中で東京改造に携わる者に

## 活躍の健児安積

①

### 第39回福島県高等学校体育大会

剣道(男子個人)

- 第1位 佐藤裕展
- 第3位 星 祐司

テニス(男子団体)

- 第1位 安積高校
- 第1位 関根・今泉組

(男子ダブルス)

(男子シングルス)

- 第1位 今泉壮規
- 第2位 関根栄知

ソフトボール(男子)

- 第3位 安積高校

### 第39回福島県高等学校

体育大会水泳大会

水泳(平泳200M)

- 第3位 秋葉俊輔

水泳(背泳ぎ100M)

- 第1位 鈴木大地

水泳(バタフライ200M)

- 第1位 鈴木大地

### 第34回東北高等学校

テニス選手権大会

- 第1位 安積高校
- 第1位 関根・今泉組

(男子ダブルス)

(男子シングルス)

- 第2位 今泉壮規

# 「安積」と「き父」の思い出

平石郁生（95期）

株式会社クリードエクスキュート 代表取締役

ついで、「いはゆる江戸児が江戸を愛したる如き、燃ゆるが如き意気熱情を以て今の市民は東京を愛せるや」と問うている。縁有って住むこととなった館林であるから、愛情をもって、自らの故郷づくりとして街づくりに携わっていかうと考えている。

昨年の三月で満三十才になった。と同時に、安積を卒業して十二年になる。在学当時は「愛校心」などというものは殆ど持ちあわせていなかった私であるが、最近、何故かそのようなものを感じている。いつの頃だったか職業のことで深く思い悩んでいた時に、一人で母校を尋ねたりした記憶がある。

ところで、私が二十四才の春、我家は父を亡くした。享年五十六歳だったと思う。母校に対する愛校心が芽生えた（？）のも、もしかしたら父のことに関係があるかもしれない。

父と私は、私が中学二年生のころからずっと仲が悪かった。というより、私が父を理解していなかったのだと思う。私は殆ど父から褒められたことがなかったが、生前、一度だけ、父が嬉しそうな顔をして私を褒めてくれたことがあった。実は、私は安積に入学する前年に一度高校を中退しており、結果的

に中学浪人を経験しているが、翌年、私が安積に合格した時、父が自分のことのように喜んでくれたのを、今でもよく憶えている。早いもので、あの時から今日まで、その倍の年月を生きている計算になる。現在、私は、マーケティング関係の小さな会社を経営しているが、会社の経営を始めてから、それまで見たことのなかった父の夢をよく見るようになった。自分で金を稼ぐようになって初めて、父の苦労や愛情が理解できるようになった気がする。改めて考えてみると、安積に通った三年間が、父と同じ屋根の下で暮らした最後の時間だった。将来、結婚して子供ができたら、その子にも「安積」へ進学して欲しいと思うようになるような気がする。



KJ

## 第39回福島県高等学校体育大会 県南地区大会

- （男子個人）
- （ソフトボール）
  - （バレーボール）
  - （バスケットボール）
  - （弓道）
  - （テニス）
  - （男子シングルス）
  - （男子ダブルス）
  - （柔道）
  - （卓球）
  - （ラグビー）

第2位 安積高校

第1位 安積高校

第1位 星 祐司

第2位 織田和則

第3位 小原吾郎

第3位 佐藤裕展

第1位 安積高校

第2位 安積高校

第3位 安積高校

第1位 安積高校

第1位 安積高校

第1位 今泉壮規

第2位 関根栄知

第1位 今泉・

関根組

第2位 佐藤・

高野組

第3位 安積高校

第3位 林 謙介

第3位 安積高校

第1位 安積高校

## 第39回福島県高等学校体育大会 県中地区大会

- （男子ダブルス）
- （ソフトテニス）

第3位 安積高校

青戸・

伊藤組

# 「25年目の楽桜会」 — 恩師囲み同級会 —

安部 敬一 (81期)

安積を卒業して、早いもので二十五年の歳月が過ぎ去ってしまいました。

ここ数年、高校時代が懐かしく思われていました。矢先、同期生である渡辺龍一郎君からの連絡により、東京桑野会への出席などいろいろと旧交を暖める機会が出来、喜んでいました。そして今年(平成五年)の夏、久し振りに「楽桜会」の通知を受け取りました。本当に懐かしかった。「楽桜会」とは、八十一期三年三組の同級会の名称で、担任は相楽達先生でした。相楽先生が、今年三月、福島女子高校校長職を最後に教師生活に終止符を打たれ、また我々も卒業して二十五年が経ったことを契機として、同級会を開催するという幹事からの案内でした。私が今まで同級会に出席したのは、卒業してから十年経つてから、鬼怒川で開かれた同級会以来で、今回は住所確認のため、実家まで連絡していただき、本当に幹事の方には感謝しております。

前書きが長くなりましたが、「楽桜会」は八月十四日夕方、同級生の渡辺恒男君のお店である「旭鮎」で開かれました。懐かしい顔があると同時に、暫くの間誰であるか分からない顔がありました。が、

しかしじつと見てみるとどこかにファイと往時の面影が出るもので、分かってしまえば二十五年という時間を飛び越えて当時に戻ってしまったのはいうまでもありません。

それにしても、相楽先生は当時と少しも変わらないうようにお若くて、皆で驚きました。記念写真を見てみますと、先生のまわりをオツさんが取り巻いているように見えますから、不思議なものです。

相楽先生の挨拶から始まりました。「このクラスが一番思い出深い」との事でしたが、それだけ面倒をおかけしたからでしょう。各自の近況を交えながら卒業してからの報告を聞いてみると、高校の頃から考えて「なるほど」とか「意外だ」と思われる人、それぞれありましたが、皆違った道を歩いているのを実感しました。学校祭の時の級旗(鳥獣戯画を描いた円筒の旗)、仮装行列の話、合宿所での悪戯で先生に迷惑をかけた事やら昔話に花を咲かせました。校歌、応援歌を誦い、カラオケに興じて、大変愉快な時を過ごしました。

途中、先生が帰られるということで胴上げをしましたが、高校時代に戻ったかのようなものでした。宴は尽きませんが、時が過ぎて、再会を期して解散しました。

今回は同級生五十四名のうち、二十五名が集まりました。皆元気で過ごしていると思っていたのですが、昨年吉田明正君が亡くなったとのことで、会を始める前に、ご冥福をお祈りして皆で黙禱を捧げました。

最後に、「楽桜会」開催に当たり、出欠に関わりなくお骨折りいただいた級友の皆さんに感謝すると



県南バレーボール選手権大会  
バレーボール(二部) 第1位 安積高校

福島県南高等学校体育大会  
春季選抜ソフトボール大会

ソフトボール(男子) 第2位 安積高校  
第18回牡丹杯剣道大会  
剣道(団体高校男子の部) 第1位 安積高校

第15回福島県高等学校  
春季選抜ソフトボール大会

ソフトボール(男子) 第1位 安積高校

第46回福島県総合体育大会  
少年の部

陸上(男子総合) 第4位 安積高校  
第17回全国高等学校  
囲碁選手権大会福島県大会

囲碁(男子団体) 第3位 安積高校  
囲碁(男子個人) 第1位 渡辺秀介



同時に、再び皆で元気で会える日を楽しみにして、拙い報告とします。

## 東京桑野会囲碁倶楽部

### 川井栄一郎 (65期)

東京桑野会には、同窓会には珍しく同好会があり、その一つが囲碁倶楽部です。

現在のメンバーは次のとおりで、卒業年次も42期から75期までと幅広く、思考型あり、直感型ありで多士済済です。(思考と直感のバランスがとれれば、もつと上手に打てるとか…)

- 42期・・澤田東京桑野会会長
  - 43期・・吉田 (以下敬称略)
  - 44期・・高橋            57期・・富塚
  - 58期・・山本            59期・・並木
  - 63期・・谷本
  - 64期・・宇田川、佐藤、長谷部
  - 65期・・今川、川井、樽川
  - 68期・・久保            69期・・山本
  - 74期・・高松            75期・・今川、永井
- 倶楽部の例会は、数カ月毎に、土曜日の午後二時から開催しています。

場所は、集合の便利さを考えて、日本棋院八重洲囲碁センター(東京駅前国際観光会館五階)で、例

会日には三三五集り次第に対局を開始、対戦相手替换えて数番の対局後、午後五時過ぎには対局を打ち切り、東京駅地下街のレストランに繰込み、会食をすることとしています。卒業年次を超えて談論風発会食するのも楽しみの一つです。

碁は娯(楽)ですが、語(手で相対することから碁のことを手談とも言い、言葉を交わさなくとも会話ができる)でもあり、さらに、伍(仲間ができ、交流の輪が広がる)とも言われています。

同窓会は縦の糸、同期会は横の糸とすれば、同好会はさしずめ斜めの綾と言えるのではないのでしょうか。

囲碁を趣味としている皆さん、貴方も囲碁倶楽部に参加しませんか。

現在のメンバーは段位者ばかりですが、段位者は勿論のこと、級位者も大いに歓迎しますので、老壮青を問わずご連絡をお待ちしています。

(幹事・・川井栄一郎)

連絡先〒247 鎌倉市台2-20-41-505

☎0467-47-5452



## 安積 ギャラリー

提供：澤田 悌  
(42期)



# 私の周辺にある「安高」

芳原優子（旧姓佐藤）

昭和51年3月安女卒

父と祖父はそれぞれ58期と25期の卒業生である。二人とも須賀川からはるばる通っていた。現在の家は安高の近所で、祖父は我が家に同居していた頃、よく母校の周りを散歩していたようだ。父はまだ仕事に忙しく、ゆっくり散歩する贅沢は味わえないようだが、いずれ迎える老後には祖父と同じように、母校の周りを散策する日も来ると思う。

と、ここまで書いて、祖父をもっと知っておけば良かった。父の青春の日々はどうかだったのだろう。彼らが母校周辺を歩きながら思い出すのはどんな事柄なのだろうという思いが湧いてきた。父と祖父はどのような関係を築いていたのだろう。私は祖父を深く知らなかったが、父のことはどうだろうと、思い至った。

少なくとも、彼ら二人は母校を共有したが、父の期待に反して、彼の子供は三人とも女で父と母校を共有することはなかった。我が家は母も入れて女四・男一という、女性優位の家族だったから会話も女中心。学校も幼稚園から高校まで三姉妹同じで、共通の知人も多い。おまけに父は多忙で、家庭で過ごす時間が圧倒的に少なかった。私は高校卒業まで

を両親と共に過ごしたが、父との会話は少なかったと思う。お互いに会話の取っかかりが掴めなかったように思う。結婚した現在の方が、彼にとって初めての息子である私の夫を媒介に、会話が弾むような気がする。祖父に関しては手遅れだったが、父のことは、これから長い時間を掛けて、深く知ることが出来るだろう。彼の思い出を共に慈しむこともできるだろう。その中には安高で過ごした頃の父の青春も勿論ある筈だ。

さて、最近では、帰省する度に、我が家の駄犬と散歩をするのが楽しみである。彼（駄犬）のコースの一つ、安高一周コースに出掛けた時のこと。ほぼ二十年振りに安高生を間近に見てブツ飛んだ。彼らの髪はサラサラで清潔感が溢れ、皆小綺麗なのである。犬に引つ張られながら、私はしばしば見とれた。

私が安女の登下校時に毎日擦れ違っていた安高生は、概ね彼らとは逆をいっていた。安高に進んだ中学時代の同級生は別として、擦れ違うだけの見知らぬ安高生には、思わず「いつシャンプーしたの?」「いつ制服を洗濯したの?」「チャント顔洗ってるの?」と尋ねたい衝動に駆られものだった。女性は清潔さに敏感なものだし、家でも学校でも女に囲まれていた私には、彼らは「黴菌を羽織ったコーコーセー」ではあっても決して「白馬に乗ったオウジサマ」にはなり得なかった。

二十年前に、毎日とは言わなくてもせめて二日に一度はシャンプーする安高生が多かったら、高校時代に恋愛の一つや二つは経験できたかもしれないと思うと、中年に差し掛かったオバサンは悲しいやら悔しいやらの心境になるのである。



安積  
ギャラリー

# ミーハーで生きていく

## 宗像 孝 (98期)

株フジテレビジョン 編成局企画制作部

他人を笑わせたり、感動させるのはたいへんに難しい作業である。テレビ番組の制作に身を置いている故、私は日々難題と格闘せざるをえない立場にいる。作家、お笑い芸人、映画監督……、それぞれの分野で名声を得ている人たちは、本当にすごいと恐れ入る。男だけの園に暮らした十年前、テレビは私にとって最良の友であった。女性と隔絶されていた都合もあってか、ブラウン管で小泉今日子に会うのは至福の瞬間であったし、親の目を盗んで「IMP」で大人の世界に首を突っ込むのも、胸がうち震える体験であった。「金八先生」を見て、よし、俺もりっぱな教師になったる」と意気込んだ時期もあるが、進路指導に苦悩する先生方の姿を見て、それはやめた。何はともあれ、テレビは郡山の一少年にとって様々なものを見せてくれる玉手箱のような存在だったのだ。

芸能雑誌の「明星」を、毎月発売日に買っては全ページ熟読していた。(今は死んでしまった)岡田有希子に会えるかもしれないという、ものすごくつまらない理由で東京に出ようと決心し、日々受験勉強に励んだのも懐かしい思い出。期末テストを翌

日に控えた日曜に、クラスメイト十数人を引き連れて仙台まで出かけ、「高校生クイズ」の予選に出場したこともあった。

「アイドルやテレビにうつつを抜かすとは、質実剛健を掲げる我が校にとって恥ずべき卒業生だ」と怒るOB諸氏もおられることだろう。しかし、当時の私自身にパワーを与え続けたのは間違いなくキョウキョンであり、明菜であった。この「ミーハー心」が現在の私をも支え続けているといっても決して過言ではない。

高三時の創立百周年記念文化祭で私のクラスは「大カラオケ大会」を催した。女性がワンサカ立ち入るのはこの時しかない。三年に一度の晴れ舞台は極限に達する。受験勉強で疲れたクラスメイトたちがいつとき心をついにし、チェッカーズやトシちゃんの曲を大観衆の前で踊り歌う……。この口私は「大勢の人を楽しませるのは素敵なことだ」と、未熟ながらしみじみと思ったものだ。

人間歳をとると、どうしてもミーハー心が薄れてくる。でも、これって結構、大切なものじゃないかと思う。いろいろなものに興味を持って首を突っ込み、様々な人に会って情報を交換し合う。ものすごくパワーが必要だけれど、ものすごく刺激的なことだ。

安積の卒業生は、全国各地、各分野で活躍されていると聞く。然らば、それをいい意味で利用しない手はないと思う。私も仕事柄、OBの方々に頼り頼られながら、いろいろと情報交換し合っていくつもりだ。安積の卒業生は皆「卒業」しただけで強力な



宗像 孝

昭和36年頃 安積高校校庭

人脈を獲得するのである。

様々なものへの好奇心を忘れず、ミーハーで生きていこう……、そう思える原点は、因らずも私の高校時代にあるような気がする。

※ちなみに現在の私の担当番組は「今夜は！好奇心」(フジテレビ毎週月曜夜七時)。一度、見て下さい。

## 朝河貫一博士と私

関根 栄一 (100期)

日本輸出入銀行 プロジェクトファイナンス室

私が朝河貫一博士の著作および集積に初めて実際に接したのは、恥ずかしながら大学四年(一九九〇年)の秋のことであった。当時私は、大学の付属機関である社会科学研究所主催のセミナーに一年間参加していて、偶然にも安積の出身ということで、博士に関する図書を読み発表することになってしまった。

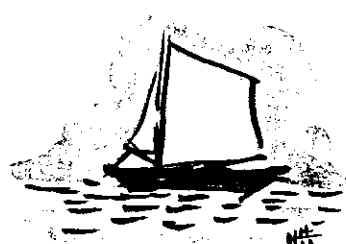
「余は日本の大事につきて、あえて当該者および国民の深慮を請わんとす。人生最大の難事は実に周囲の境遇と一時の感情および利害とを離れて考えかつ行うにあり……」で始まる『日本の禍機』は、一九九〇年に発刊された博士による憂国の著である(現在講談社学術文庫より刊行中)。当時博士は、清国の独立保全・機会均等の二大原則の実現という

米国の対清政策は既定の事実と認識し、「万一不幸にして日米が東洋において衝突することあらば」「表面の大義は日本の側にあらずして米国の側にあるべし」と述べ、日露戦争後の日本の対米・対清政策に警笛を鳴らし、「国民の猛省」を促している。

「読者願わくは世界人類の大処より観察を下されよ。」残念ながら、この後日本は博士の憂慮した事態を自ら招き、太平洋戦争に突入しやがて敗戦を迎える。この著書の中からは、状況に対する博士の鋭い観察力と、物事を目先の利害得失ではなく大所高所から判断しようとする姿勢が読み取れる。博士が歴史学者であり、かつ米国の地で日本および世界の動きを観ていたということを知り引いたとしても、今なお我々が学ぶべき点は多いように思われる。

現在私は、日本輸出入銀行に勤務している。中でも私の属している部署は、「プロジェクトファイナンス」という金融手法を用いて、世界各地で行われつつある資源開発・インフラ整備等のプロジェクトに貢献していくことを、その業務内容としている。「プロジェクトファイナンス」という金融手法自体が複雑であり専門性を要求されるため、今までのところ本行では五件の実績しかないが、内談は数多く特にアジア・ラテンアメリカの電力開発プロジェクトが多い。世界的な民生活・民営化という流れを受け、本行に対する資金需要には根強いものがある。仕事柄日本の対外関係を意識する機会が多く、博士の今日的意義を實踐していくという意味からも、私自身に課せられているものは大きいと感じる今日この頃である。今後益々研鑽を積み、博士のように時代の流れに耐えうる見識を磨いていきたいと考えている。

安積  
ギャラリー





# 座談会



《出席者》 大矢 真弘 (37歳=88期)  
小野崎 敦 (27歳=97期)  
関根 栄一 (24歳=100期)  
渡辺 剛司 (29歳=104期)  
司会 丹治 則男 (81期)  
平成5年11月5日  
於：麴町会館 (東京都千代田区)

## PART II 僕たち『安積一家』

母校は創立百十周年を迎えます。「伝統ある…」という枕詞をつけて語られること多い「安積」ですが、きょうは、この伝統を実感する大きな場となっている同窓会について、お話をうかがいたいと思います。初めに、皆さんが初めて東京桑野会に出席された時のことを、まず安積の卒業が平成三年という若さの渡辺さんからお願ひします。

椿山荘の「ちんちん」が待っている

渡辺 (安高の) 三年の終わりがごろでしたが、数学の先生が「東京に行ったら椿山荘でやつてっから」と東京桑野会に顔を出すよう勧めてくれたんです。「あの有名な椿山荘だぞ、ごちそうが食べ放題だぞ」って。それで、大学二年になった今年、初めて出席しました。——大先輩たちのなかに飛び込んだ訳ですが、話は弾みましたか。

渡辺 ちょうど祖父と話しているような気持ちになって「ビールおつぎします」なんて…。沢田会長には「100期以降の人も来てくれる。うれしいことだね」と声をかけていただき感激しました。大学の先輩という方には「頑張れよ、なっ」てはげまされました。それにテレビでみた宗像さん(紀夫)73期、現東京地検特捜部長)にもお会いできたし、楽しかったですね。そして「素晴らしい先輩方がこんなにたくさんいるんだなあ。ほくもがんばりなくっちゃ」と思いました。

——この中で一番の先輩にあたる大矢さんは、

総会を椿山荘で開くようになる前から出席されているんですが、そのころはいかがでしたか。

交詢社のころは隔世の感

大矢 最初に出席させていただいたのは昭和五十三年でした。会場は銀座にある交詢社というところだったんですが、集まったのは百人くらい。それこそ大先輩ばかりでした。いまは二百、いや三百人くらいですよ。若い人、特に学生さんも出席するようになったし、交詢社のころに比べると、料理の質と量も含めて、ちよつとオーバーかもしれません。隔世の感があります。よくぞここまで盛んになったものだと思いますね。

——大きな区切りである100期生、関根さんは、そのことでも、大先輩の皆さんから注目されたんじゃないですか。

心強かった安積のつながり

関根 同期の土門君と一緒に رفتたんですが、「君たちは100期か、そうか100期か」と感心されたような、驚かれたような…。大学一年でしたから昭和六十二年、その年が最初でした。おんなじ高校出てるっていうだけで声をかけてもらえる。そのことに、安積の強いつながりを実感できましたし、心強い思いがしました。

大矢 同感です。郡山がなつかしい…郷愁ですよ。それとともに、先輩がたくさんいる、

おおぜい仲間がいるんだという心強さを、私も感じましたね。

——ちょうど創立百周年の年、昭和五十九年の卒業生である小野崎さんは、いかがでしたか。

誘った友達にはみんな振られた：

小野崎 僕も大学一年の時が最初でした。昭和六十年です。知ってる人はひとりもいませんでした。総会の前に何人か友だちを誘ったんですが、みんなに「オレ、いいよ」って振られちゃいましたから。「桑野会のことを敬老会と勘違いしてるんじゃないのかな」って思いましたよ。

——毎年四月に開かれる東京桑野会の総会は、開会が六時です。仕事の関係では決して「出席しやすい」時間という訳にはいかないと思うんですが、皆さんは皆勤、あるいは、それに近い方です。せっせとお顔を出す、出そうとされるのはなぜでしょうか、なにが桑野会の魅力なのでしょう、そのあたりをお話し下さい。

大矢 刺激を得に行くということでしょうか。自分を励まして「さあ、もう一年がんばろう」という気になさせてもらうんです。

——その刺激というのは、具体的には何でしょうか。

大矢 ひとつは高校時代を思い出すことでしょうか。それから、上京したときの「不安な気持ち」ですね。新しい生活への期待や希望、

それも、もちろんありました。不安が八割いや九割でした。周りの人はみんな標準語だし、男子校を出て入った大学は文学部ですから周りは女の子ですし……。

——上野駅に訛を聞きに行く。今の上野駅は大分違います。大矢さんにとって、桑野会に出席するのは、そのようなものでもあるのでしょいか。

椿山荘で歌う校歌と応援歌が「力」



大矢 そうかも知れませんが。年一回、椿山荘で校歌、応援歌を歌い、聞く。そのときの「なつかしさ」と「体感」を感じるんですが、それから

の一年の「力」となるんですね。

関根 私にとっても校歌、応援歌ですね。歌うことで「安積一家」の一員であることを認める。そして、桑野会の懐の深さを知る。

これが魅力なんだと思います。椿山荘で知り合いになった先輩に飲み屋に連れてってもらったりすることもありましたし……。安積というものがあって、そのお陰で、自分が「根無し草」にならずに生きていける、そんなふうに見えるんです。

——小野崎さんには今日の座談会をセッティングしていただきました。会場の予約など、忙しいなか桑野会のためにご苦労下さるのはどうしてでしょうか。

小野崎 なんでオレ椿山荘に来てんのかなと

考えたこと、あるんです。要するに人に会いに行くんですね。失礼な言い方になりますが、正確には人を見に来てるんだなと思っっています。ふだんの生活では交友範囲は限られていますから。

——それに、仕事上の人間関係は普通は利害が付きまといましますし……。

小野崎 「浮世のしがらみ」みたいなもの、なんにもない。そんなところで夢のみをも語り合えるのは、あるいは桑野会の場ぐらいなものじゃないでしょうか。

——渡辺さんはいかがですか。これからも出席したいと思われませんか。

安積の誇りが自分を鼓舞

渡辺 僕の場合も、安積の104期生であることを誇りに頑張っていきたい。そんな自分を鼓舞してくれるのが桑野会なんじゃないかなと思っています。

——渡辺さんの思いは、安積への帰属意識が根底にあるように感じられますが……。

渡辺 安高時代のことですが、「すごいなあ」って思ったことがあるんです。僕はラグビー部にいたんですが、ある時、日曜日でしただけ、ゲームのあと三、四人でラーメン屋に入ったんです。そしたら、全然知らないおじさんが「日曜なのに頑張ってるな。おごつてやるよ」ってお金払ってくれたんです。着ていたウインドブレーカーの背中に「ASSAKA」って書いてあってわかったらしいんで

すが、うれしかったというより「安積一家なんだなあ」って感激しました。



小野崎 私は大学入学直後でしたが、安積の友達数人と食べ放題の焼き肉食って、ベロンベロンに酔っ払って新宿の西口公園で大騒ぎしてたときです。噴水に入って泳いだりした後「最後は校歌だあ」って歌ってたら、どっかのおじさんが近づいて来るじゃないですか。ずいぶん傍若無人に騒いでましたから「これはマズイ」と思ってたら、「おまえら安積か。一緒に歌おう」ですよ。「安積っていいなあ」と思いました。

——同窓会というと、功なり名を成した年配者のサロンのようになつたり、懐古趣味を満足させるだけの集まりであつたりという学校もあるように聞きます。でも、お話をうかがっていますと、東京桑野会は大先輩から現役の学生まで、ともに語り合える得難い場となつていえると言えるようです。桑野会のさらなる発展を願つての要望やご意見をお聞かせ下さい。

### 桑野会の中に青年部をつくらう

関根 そうは言っても若い人達には敷居が高いというか、どうしても、いきなりは飛び込むにくいものがあります。これだけ大きな組織なので、桑野会の中に若手による下部組織を作つたらいいんじゃないかと思うん

です。村の青年団のような組織ですね。「桑野会青年部会」、そんなものができたらいいなと思います。

小野崎 大賛成ですね。私たちは先輩の知恵をお借りし、教えていただく。そして、若手は若者らしい感覚でいろいろなアイデアなどを提案していく。とてもいいことだと思います。ぜひ実現させたいな。

渡辺 僕もいいと思います。青年部とのつながりから、桑野会への出席者も増えるんじゃないでしょうか。

大矢 そういうものができれば、若手と先輩の間の意思疎通もうまくいくんじゃないでしょうか。会の活性化にもなると思います。でも、その青年部の年齢制限はいくつまでになるのかな。私は入れてもらえるんでしょうか。

——大矢さんは、まあ青年部顧問というところでしょうか。澤田会長はじめ役員の方々に検討していただくことにしましょう。そのほかではなにかありませんか。

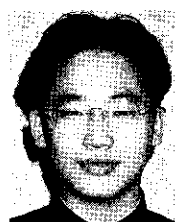
渡辺 受験の時、たとえば郡山高校のOBは、大学の門で「郡山高校ガンバレ」って書いた大きな旗をもって、受験する後輩を激励してるんです。うらやましいな、安積でもやれたらいいな、と思いますね。

### 学生割引を拡大できないか

大矢 細かなことだけど、学生が四月の総会に行くと、たしか五千円だか払わなくちゃな

らないですよ。二千円の年会費も含めてなんだけど、もう少し学割が大きくてもいいかなという気がします。学生にとっては、ちょっと高いですよ。社会人の我々が千円ぐらいつつ余計に出して何とかするという訳にはいかないものでしょうか。

——学生である渡辺さん、大矢さんがおっしゃってくださいましたこと、どうですか。



渡辺 はじめにも言いましたので、桑野会に行つたときの一番の目的は、恥ずかしいけれど「あの椿山荘で、ごちそうが食べられる」ことでした。料理はすごくおいしかったし、社会人の方にとって「あの会費でこんなに」というような豪華な宴会だと思います。会費は安すぎるんじゃないかとさえ思います。でも、甘えさせてもらえるなら、親のすねをかじっている身には、正直言つてちょっと痛い出費といえますね。

——これも、心優しい先輩方にお願ひしてみたいと思います。ほかにはいかがでしょうか。いつまでも温かい憩いの場で

小野崎 東京桑野会、たしか会則でしたが、「桑野の母校・安積に学んだという共通の経験に結ばれた親睦の会であること」とありますよ。ただそれだけを唯一のものとする会であり続けて欲しいということですね。一種、俗世間と離れた集い、いつでも、気が向いた



ときに、ふと立ち寄ることができるような、そして、そこでゆつくりと憩える…そんな会であり続けて欲しいと思いますね。

**大矢** 同感ですね。それから「同窓会とは何なのか」とかいうようなことを言い始めると本質を見失ってしまうんじゃないでしょうか。ポヤーツとした中で、おのおのが何らかの価値をみいだすべきで、一般的な価値観から自由な会としてあり続けて欲しいですね。

——澤田会長はじめ大先輩のみなさんが口をそろえておっしゃるのは「若い人がもつと参加する会に」ということです。若き会員である皆さんから仲間たちにメッセージを。

**大矢** 学生よ来い！ いろんな経験を持った方、世の中で活躍されている方…多彩な人材が待っています。視野を広げるためにも、ぜひ参加して欲しいですね。

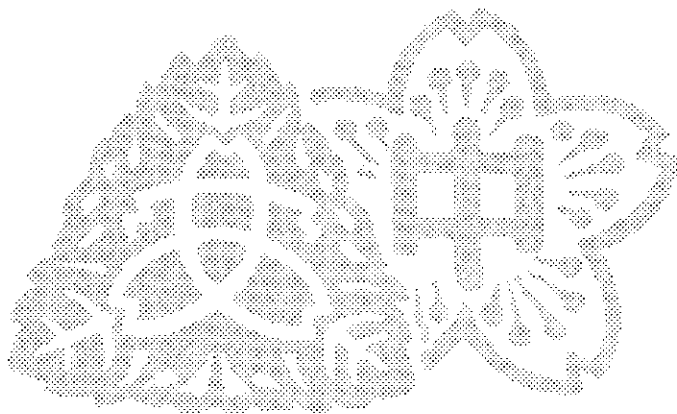


**関根** 暇期に本田宏一郎君という人がいるんですが、彼はバンナム級のプロボクサーなんです。今年の東日本新人王決定戦に出場し、1回戦はK

O勝ち、2回戦で残念ながら敗れてしまったんですけど、軽量級のホープです。桑野会には、いろんな人がいます。ごちそうしてくれる先輩もいますよ。

——先輩、ちょっと金欠なんですけど「って後輩が来たら飯をおごってあげますか。」って

**関根** その時の財布の重さに応じて、それなりには…。



**小野崎** 大丈夫かい。そんなこと言って後輩が殺到したって知らないぞ。

——かく言う小野崎さん、頼りになる先輩として心温かき一言を。

**小野崎** 安高のときは地学部だったんですが、もう時効だから言いますけど、よく隠れて合宿したんです。そのときには部のOBの方が車を出してくれて、望遠鏡やらテントやらを運んでいただきました。先輩から後輩へ、それを大事にしていききたいと、私も思っています。

**渡辺** 僕はまだ学生で、お世話になりたいほうに入っていますが、これから上京する後輩には「いい兄貴」となれるよう頑張りたいと思います。

——最後になりますが、いま思っていること、考えていることについて、一言ずつお願いします。

**小野崎** 桑野会に出席するのは私にとって「百年に会いに行く」ことなのかもしれない。そのためにも、いま作業を進めている名簿作りに力を入れたい。この場を借りてご協力をお願いしたいと思います。

**関根** 小野崎さんと同じです。桑野会のつながり、それを継続させ、新たなものを生み出し発展させていくには、何と言っても名簿がまず第一です。

**渡辺** 大学の友達は「安積ってどこにあるんだ」って言います。郡山ならわかるんですが、郡山市を安積市に変える運動を！

**大矢** 全国的には男子校というのはほんとに少ないですよ。大学の友人に安積時代のことを話したら「大矢、お前ホモか」って言われたことがあるんです。でも、男子校ゆえの良さが沢山あった。私たちにとって、安積は「根っこ」なのかも知れない、そんなふうに思います。

——人材は硬軟そろっている。それが安積の伝統を育んできたと言えるでしょう。話は尽きませんが、桑野会の発展、そのためにも若い世代の参加を大きな声で呼びかけたいと思います。

# 朝河貫一博士生誕 百二十周年記念行事について

水口 禎 (67期)

の絶大なご支援とともに柳沼八郎氏(50期)のリーダーシップ、朝河研究者としての矢吹晋氏(70期)の献身的な努力によるところ大であります。

## ●福島県の顕彰事業

「朝河貫一賞」の制定

福島県では一九九一年に、今日の情報化・国際化時代に必要な青少年を育成する一貫として、県が生んだ世界的な学者の名を冠した「野口英世賞」と「朝河貫一賞」を制定しました。県内の中・高校生を対象に論文を募集し、優秀な科学研究論文には「野口英世賞」、国際理解・国際交流に関する論文に対しては「朝河貫一賞」を与えるものです。

「朝河貫一賞」については第一回から横浜市立大学の矢吹晋教授が審査委員長として活躍されております。また第二回(一九九二年度)の高等学校の部では、母校の山見修平君(当時三年生)が見事最優秀賞を受賞されました(会報第十五号の母校便り)。

## ●二本松市の記念事業

■中・高校生海外派遣

博士の顕彰事業として毎年「市民の翼」海外派遣を実施しておりますが、生誕百二十年の本年は大河内市長が自ら団長として市内の中・高校生十二名を引率し、朝河博士ゆかりのダートマス・エールの両大学を訪問されました。

二本松青年会議所としては、二年前に安積高校から根分けした「朝河桜」を孫分けとし

て核大使として両大学に移植したい、との計画でしたが検疫などの理由で今回は実現しませんでした。

■中学生副読本「朝河貫一(一)を以て之を貫く」の発行および記念講演会(十一月十三日)の開催。

## ●安積高校関係の記念事業

■シンポジウムの開催

母校の進路講演会として九月十三日母校体育館にて、朝河貫一研究会から四人の講師、(斉藤襄治氏(ダートマス大学客員教授)、増井由紀美氏(千葉大学、津田塾大学講師)、福留久大氏(九州大学教授)、矢吹晋氏(横浜市立大学教授)をお招きしてシンポジウム「朝河貫一の生涯と学問を語る」が開かれました。

■特別展の開催

九月一日から十二月二十二日まで安積歴史博物館にて「朝河貫一・生誕百二十周年展」が開催されました。

## ●記念論文集『朝河貫一の世界』出版

■「朝河貫一研究会」の発足

一九九〇年の『朝河貫一書簡集』刊行時に、編集にたずさわられた早大社会科学研究所の峰島所長らを中心に「朝河貫一研究会」が、二十八名のメンバーにより発足し、朝河研究の場となっております。

この間の経緯については、会報十二号「朝河博士書簡集の刊行にかかわって 柳沼八郎(50期)」および十四号「いまこそ朝河学

一九九三年が朝河貫一博士生誕百二十周年の記念すべき年にあたりましたので、博士ゆかりの地元二本松市、福島県、安積高校、早稲田大学など関係者の大きな力を集めて様々な記念の行事が行われました。

事業推進については、朝河貫一研究会顧問の柳沼八郎氏、安積桑野会の渡辺会長および二本松市の市川教育長が世話人となって主に二本松市での準備会で進められました。東京桑野会からは土屋幹事長(当時)と副幹事長(当時)の水口が参加しました。

事業の成功は佐藤知事、大河内二本松市長

# 朝河貫一賞

## 国際理解・国際交流



を「朝河研究会へのお誘い 矢吹 晋(70期)」をご再読頂ければ幸いです。いずれにしても現在の朝河研究は故阿部善雄氏(50期)の労作「最後の日本人——朝河貫一の生涯」が大きな礎になっていることが実感されます。

### ●「朝河貫一の世界」の出版

記念事業の大きな柱の一つとして記念論文集の出版は、「朝河貫一研究会」による執筆・編集・製作、多くの関係者による頒布への協力体制で成就できました。

執筆・編集には東京桑野会からも次の方々に参加されて多大な貢献をされてることは、同書に見られる通りです。

柳沼八郎(弁護士、50期)、石川衛三(宇都宮大学名誉教授、57期)、中出 勉(大正大学、67期)、矢吹 晋(横浜市立大学、70期)、相楽 勉(東洋大学、90期)の各氏。中田勉氏は本書出版直後、病を得て急逝されました。朝河先輩についての「朝河貫一の人格形成と美的感覚について」が、氏の最後の論考となりました。ご冥福をお祈りいたします。頒布については「朝河貫一書簡集」刊行時と同様東京桑野会の皆様のご協力に感謝いたします。

### ●「朝河協会」(仮称) 法人組織化

朝河博士の研究・顕彰を充実発展させるためには組織の法人化が必要、との柳沼八郎氏の強力な提唱に対して、大河内二本松市長からご協力するとの言葉を頂きましたので二本松市が中心になって準備に入ります。

### ■ 会員動向

●平成五年七月十八日に行われた衆議院総選挙に於いて、福島一区から出馬された増子輝彦

氏(79期)、根本匠氏(82期)、福島二区から荒井広幸氏(90期)、玄葉光一郎氏(96期)が見事当選されました。九月三日椿山荘にて、東京桑野会の幹事及び有志により、当選祝賀会が催されました。

●糖沢和夫氏(68期)は経団連理財部長当時に、皇太子妃となられた雅子さまのハーバード大学卒業論文作成にあたって、参考にと「石油ショックに対するマクロ・ミクロの対応について」お話しをしたと述べられています。そして論文を通読して「その学問的素養と論旨の展開力」に高い評価を与えていらっしゃいます。

●古川清氏(63期)は平成五年三月駐アイスランド大使に任命されました。そして雨の国アイスランドを紹介する一文をお寄せ頂きました。大使のご活躍をお祈り致します。

●遠藤実氏(64期)は平成五年四月、ジュネーブ国際機関日本政府代表部大使に任命されました。世界経済新秩序づくりをめざすウルグアイ・ラウンド交渉にのぞまれる大使のご活躍をお祈り致します。

●宗像紀夫氏(73期)は平成五年七月東京地検特捜部長に就任されました。一連の疑獄事件捜査の推移が注目されます。

●滝口正嗣氏(100期)早大野球部四年は、平成五年五月三十日の伝統の早慶戦に於いて、救援し相手打線を五安打、一失点に抑えて今季リーグ戦トップの七勝目を飾り、東京六大学のベストナインに選ばれました。

# 朝河貫一

一を以て之を貫く



二本松市教育委員会

## 事務局便り

毎年、会報の発送をして二、三日すると、事務局の郵便受けは、入りきれないほどの転居先不明の封筒で一杯になります。多い日は一日二十通以上にもなり、トータルでは百五十通くらいになるでしょうか。

現在、東京桑野会の名簿に名前が載っている人は三千名近くいますが、その中には住所が不明になっている人も多いため、会報を送りできるのは二千二百名くらいです。なるべく多くの人に会報を読んでもらうためにも、引越の際は、ぜひ事務局までご連絡を頂きたいと思えます。

また、皆さんからのご連絡によって新しく会報をお送りした会員の方から「高校卒業以来十何年ぶりに会報を手にし、感激しました」というお手紙をいただくこともあります。ぜひ同期の友達の住所の動向を事務局までお知らせ下さい。  
(小松弥生)

## 東京桑野会会報No.16

1994年3月1日発行

■発行人

澤田 悌

■事務局

斉藤法律事務所

〒160 東京都新宿区新宿1-3-8 YKB新宿御苑804

☎03-3356-6677 FAX03-3356-6678

■広報部事務局

株リュウコーポレーション

〒151 東京都渋谷区初台1-47-4 第2加藤ビル1F

☎03-3373-7590 FAX03-3320-8218

■編集・制作

株パンオフィス

〒130 東京都墨田区東駒形3-1-1 田中ビル1F

☎03-5608 2159 FAX03-5608-9745

## 編集後記

■懸案の在校生卒業前発行が出来ました。

安積時代の情熱を最後まで会報の育成に尽くされた大森直道先輩(49期)が昨年六月に逝去されました。感謝をこめて新しく強化された若き広報部の仲間とともに第十六号を捧げたいと思います。  
(67期 水口 禎)

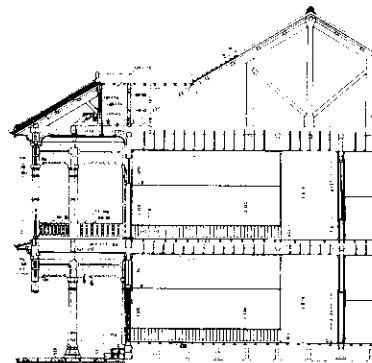
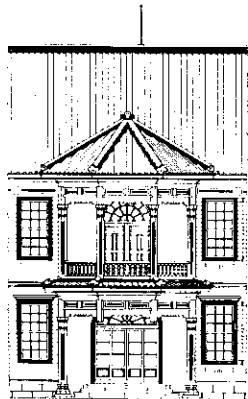
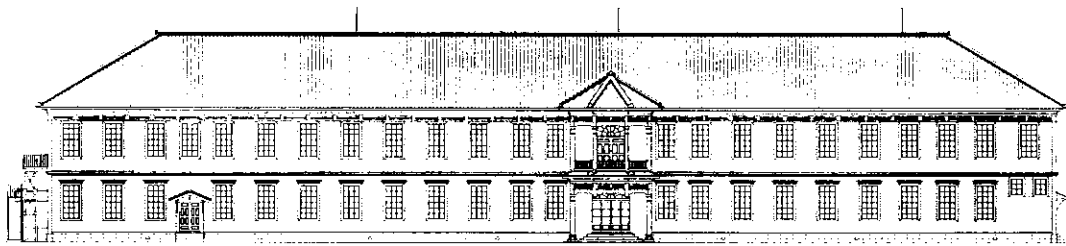
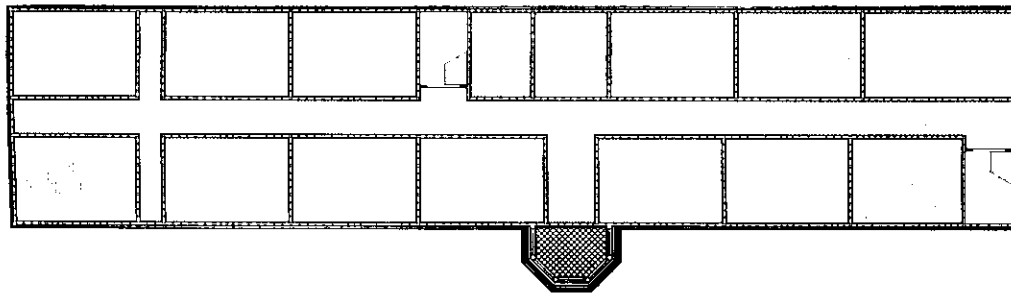
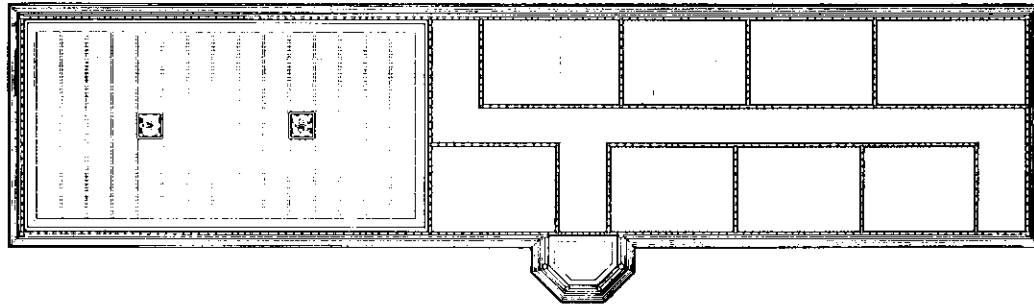
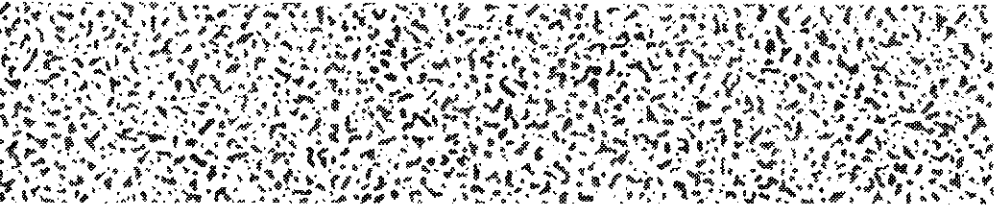
■今年には広報部事務局を解放された。「リュウコーポレーション」の渡邊氏が受けてくれて、ホッとしたこと、会報のマンネリズムから脱せたことは、本当に感謝です。編集会議も渋谷から新宿へ、紙面一新に向かって盛り上がりました。若手の参加も多く、多彩な顔触れで安積の層の厚さを感じます。中でも丹治氏の働きは秀逸でプロのお手並みです。反省としては、同じことを10年以上続けると色々問題があるものだと思います。  
(広報部長 78期 櫻井淳)

■16号はスタイルを一新することができました。いかがでしょうか。実はこれ、一に株パンオフィス社長・川鍋昭彦さんのお蔭なのです。文字を書き並べるだけでは文章にはならないのと同じように、いただいた原稿を並べるだけの作業を編集とは言わない。まして、酒を飲みながら広報部会で勝手なことをいうのを「会報の編集」とは言わないのですね。川鍋さんに感謝しながら、赤い顔で恥じ入っております。  
(81期 丹治則男)

■第十六号のイラストは七十四期の七海暗装君にお願いしました。彼は水田莊介先生門下の優等生です。当時の木造の音楽教室の隣の美術教室で黙々と石膏を描いていたのは七海君を始め、水産大からいきなり画家転向をめざした岩谷さん、福島大の能田君、芸大卒の安齊君らがあります。二十年前に昨秋七海君に会った時作品制作続行中であることを知り今回となりました。感謝。  
(74期 高松豊)

■広報部が桜井事務所からリュウコーポレーションに移って初めての編集会議。メンバーが集まったのプレストはワイワイガヤガヤ。この先どうなるのかと思っていたが、安んずるより生むが易しで、企画も決まり何とか形になりそう。忙しい中、原稿を頂いた諸先輩の時間をやりくりして編集に参加頂いた広報部の皆様には、ただ感謝あるのみです。  
(81期 渡邊龍一郎)

■仕事の合間に会社の同僚から、「なんの仕事かと思ったら、OB会の会報? えっ! 大学じゃないの? 高校の同窓会? えっ! だって福島だよ? 東京だけ? そんなのあるの? すごい高校だね。」と感心されるやら。横浜生まれ横浜育ちの妻には、「また桑野会?」と呆れられるやら。でも今ちよつぱり誇らしい気分。安積の卒業で良かったと。東京桑野会の会員で良かったと。そして勿論、広報をやっていて良かったと。(鬼の桜井先輩も私には、大仏様。)ハッハハ……。  
(91期 根来尚史)



●重要文化財「旧福島県尋常中学校本館修理工事報告書」より

## 東京桑野会定期総会開催のお知らせ

■今年は、例年の4月から6月に変更になりました。ご注意下さい。

東京桑野会のメインイベントである、定期総会と懇親会を開催いたします。今年は母校創立百十周年にあたり記念式典と合わせて大いに盛りあげたいと思います。多数の同窓生会員の皆様が参加されますようご案内申し上げます。

●期日 平成六年六月四日(土)

●時間 午後三時——受付開始

午後四時——総会

午後四時三〇分——記念式典

午後五時——懇親会

●議題 一、会務報告の件

二、予算決算の件

三、その他

●場所 日白 椿山荘

東京都文京区関口二一十一八

(TEL〇三三三九四三二二二)

JR日白駅、地下鉄有楽町線江戸川橋下車

●会費 懇親会費八、〇〇〇円(学生年度会費含)、〇〇〇円

平成六年度会費二、〇〇〇円

なお、当日出席出来ない方は、同封の振込用紙で年度会費二、〇〇〇円のお振込みをお願い申し上げます。

◇準備の都合もございますので、出欠の返事を同封の葉書で3月末日までにご返送下さいますようお願い申し上げます。

◇また、連絡もれもあるかと思われますので、先輩、同期、後輩もお誘い合わせのうえ、多数の出席をお願いいたします。

◇昨年度は、平成5年4月16日に開催され、200名を越える参加者がありました。

◇記念すべき今年の総会の司会は、フジテレビプロ野球ニュースの中井美穂アナをお願いする予定です。65期中井惣吉氏のお嬢さんです。